

第8回新城市産業自治振興協議会

平成28年10月6日（木）午後7時～午後9時10分
新城市消防防災センター2階 災害対策本部室

○白井商工政策副課長 皆さん、こんばんは。
定刻、少し過ぎましたけれども、ただいまから第8回の新城市産業自治振興協議会を始めさせていただきます。

本日の出席者は委員14名中10名でございまして、過半数の出席者となりましたので、会議は成立しております。報告させていただきます。

それでは、ここから協議会運営規則第3条の規定によりまして、議長の鈴木会長に進行をお任せいたします。

よろしく願いいたします。

○鈴木誠協議会長 皆さん、こんばんは。

座ってお話ししたいと思います。

今日は第8回目になりました。新城市産業自治振興協議会です。

先ほど、ちょっと打ち合わせをしていたのですけれども、いよいよ市長への答申に向けた準備に入ってきています。

きょうは産業自治という言葉の意味にもつながるような、そんな話し合いができるかなというふうにも期待しております。

この間は、実は、ある中小企業の経営者の皆さんと僕の職場の、名古屋の職場で随分長い時間、御一緒する時間がありまして、その時に、この産業自治という言葉、語り合った夜は飲みながら語り合いましたけれど、中小企業は産業自治ということを考えるときに、実践するときに2つあるだろうと。1つは雇用、地元で暮らして暮らしを立てている人たちを雇用するという通じて雇用の関係をつくっていくということが1つはある。

もう一つはやはり、そういう働き続けている人たちを、ただ職場を提供するだけではなくて、働きながら地域の祭りであるとかイベントであるとか、あるいはPTAであるとか、さまざまな地域の中での暮らしのいろいろな場面に従業員が一社会人として、企業人としてもっと気軽に参加していける、そういう職場づくりをやはりしていかなければいけない

と。

そのためにも、当然、事業の安定は必要なけれども、しかし、そののちをしっかりとやはり意識していかないと、中小企業の経営者として産業自治というものは言葉だけになってしまうと語ってくれました。

一方で、先日は刈谷市の中小企業振興基本条例の検討会に出た折に、そこでは大手企業の部長さんが企業として、大企業として産業自治にどう関るか。これは会社としてのCSR、当然、そのいろいろな基金とか、あるいは財団を持っていることもあるので、そういう既存の仕組みを通じて積極的に関わっていくことも大事であると。

それと一方で、先ほどの中小企業と同じように従業員が仕事をしながら、同時に会社のある地域、あるいはそれぞれが生活している地域に深く関って、そして地域社会人として生きていけるように会社としても雇用関係を整備していこうということをおっしゃいました。そのことが、そういう経験が実は海外に出ていったときに生きる、海外の複雑な習慣であるとか文化であるとか風習であるとか、さまざまなことに、会社はこうだというふうには押しつける、もうこれは一番の不審不安をあおることになってしまうと。やはりグローバルの中でもこういう地域ということ、働く人のことを考えて地域を見ていくということが、日本での経験がすごく海外に生きるのだということもおっしゃっていました。

我々が今やろうとしていることは、そういった点では、地域産業総合振興条例に基づいて、大手企業、中小企業、個人事業者、それぞれが自分というところを通じて、あるいは働く人たちを通じてまちを良くしていく、そういうことに直接関わっていけるように、そして関った結果としてそれが良いものであれば、逆に今度は地域から称賛される、そのような関係というものをこれから答申の中に盛り込んでいくような段階になってきたかなという

ふうに、今日を迎えるに当たって思いました。

そういうことで、今日は限られた時間でありませけれども、また皆様に御審議いただくことが多くありますので、どうぞよろしくお願いたします。

以上です。

○白井商工政策副課長 ありがとうございますました。

続きまして、次第に沿いまして進めさせていただきます。

2番目の報告事項となります。

前回、第7回の新城市産業自治振興協議会の協議結果について簡単にまとめたものを発表させていただきます。報告させていただきます。よろしくお願いたします。

○西田主任 まず西田から、第7回協議会での新しく仕事を始める人への支援として出た主な意見を4点ほど御報告させていただきます。

まず1点、きちんとお金を稼ぎ事業を続け続けていけるようにする支援。

2点目に地域の困りごとや地域資源を活用するような事業の担い手を見つけること。

3点目、事業だけではなく、担い手の気持ちに寄り添いながら、少し前を照らし一緒に前へ進んでいくような支援。

最後4点目に、行政や金融機関、商工会だけではなく、市民や事業者など地域全体で担い手を応援し、支えていけるような雰囲気づくりが必要なのではないかという御意見をいただきました。

次に、そこで、今ある支援というものを考えてちょっと探してみたのですが、今年度から、新城市と金融機関、商工会と創業支援事業というものを策定いたしました。こちらは、市内での新たな産業の担い手を育成するために、創業、起業に必要な基礎実務やノウハウが習得できる研修会や相談会などを連携して開催しております。具体的には、資料に入っている、一緒にチラシをつけさせていただ

たのですが、このような奥三河創業塾というものを開催しております。こちらは全5回になるのですが、こちらを受講してもらうと、そういったノウハウが取得できることと一緒に、登録免許税や信用保証の特例などを受けることができるというような仕組みです。

ただ、こちらの仕組みとしましては、具体的にはカフェやパン屋とか、あとは美容室、ネイルサロンなど、これまで具体例の多くある事業への支援というものを想定しております。例えば、地域の困りごとを稼ぎながらどう解決していくかであったり、地域でどうお金を稼いで地域に還元して持続させていくのかというような事業計画の段階での支援ができないものですから、新たな支援としまして資料の、チラシの後ろにつけさせていただいている、地域産業支援相関図（案）というものを左上のほうに、伴走支援事業というものを市でしていきます。

こちらは、ソーシャルビジネスやコミュニティビジネスといったものを、その事業の相談窓口として、月1回のミーティングとして方向性の確認とか、次回までの目標設定、事業の進捗管理などを事業者さんと一緒に考えながら、伴走して進んでいくような仕組みです。

この資料、はねていただいて、後ろには創業支援事業と、金融機関と新城市の包括協定というものを説明としてつけさせていただきました。内容としてはこちらをご覧ください。

私からは以上です。

○加藤商工政策課長 それでは、今度、私から、今、西田から説明がありました相関図ですけれども、相関図（案）左側に伴走支援事業（仮称）とありますが、こちらの方、皆さんが第6回、第7回で支援が必要だといったものを図にするとこのような形になります。その下に長くソーシャル・ビジネス、ローカル・ビジネス、若者、女性起業・創業地域自治区と書いてありますが、ここのところで地

域の課題を考え出そう、また、その考えたものを解決するということは、こちらに資料1というA4の紙が1枚、皆さんの手元に判こが押してあるもの、資料1の方に、前からお話をさせていただいておりますけれども、新城市は市民自治と、裏面に行きますと地域自治、それと産業自治というこの3つの自治で政策を考え、進めていこうと思っております。

資料1と書いてあります市民自治の方を見ていただくと中段になりますが、新城市自治基本条例の第4条には、まちづくりを進めるに当たっての基本原則というものを明らかにしています。

まず1つ目は、市民主役の原則ということで住みよいまちにするために市民一人一人が行動すること。

2番目は、参加協働の原則で、市民が市政について参加できる仕組みを整え、市民、議会、行政または市民同士がお互いの立場を尊重しながら協力してまちづくりを進める。

3つ目は情報共有の原則。市民がまちづくりに取り組めるように、議会・行政は情報を積極的に分かりやすく適時市民に提供。まちづくりに関する情報と意識の共有を図ります。

市民も自分たちが持っている地域の情報等を積極的に提供し、さまざまな活動が互いに有効に機能するように努めますとあります。

裏面を見ていただきますと、今度は地域自治、こちらは新城市の自治基本条例に、第17条には地域自治区について定めています。

新城市は大きく新城を10個の地区に分けて地域自治区というものを設けているのですが、こちらには地域事情を踏まえた施策を適切なときに実施するためには、地域をよく知っている、実際に暮らしている住民の意見が重要です。そのためには、市長権限の一部を地域へ移し、現場で解決する仕組みが必要です。

地域の特色を生かした地域ごとの市民意見を市政に反映し、身近な地域課題を素早く解

決する仕組みとして、地域自治区制度というものを定めております。

この産業自治振興協議会では、第6回、第7回は、特にこの地域で出た課題を解決するようなコミュニティとかソーシャルビジネス、またはローカルなビジネスとか小さなビジネスというものを、また、若者、女性とかが考え出した課題を、その中から芽となって出てきている、これは産業にしたらいいのではないの、というものを伴走支援事業で拾い挙げていただいて、最終的には地域で稼いで、そのお金で地域の中を回していこうということ、今新城市は考えております。

それで、その中で、市民自治とか地域自治というところではこちらに、A3になりますが、平成25年度から地域自治区が始まりまして、地域活動交付金というものを今出して、各地域がそれぞれいろいろな取り組みを挙げています。中には防災用品を買うなんていつて手を挙げたりしている人もいれば、今後、まだまだ地域の活動として何とかなっていくのではないかというものもあれば。また、「めざせ明日のまちづくり事業」というものは、地域ではなくて団体、数名で出来ている団体、地域から外れても団体の方に対するまちづくり事業で補助金を出しています。この「めざせ明日のまちづくり事業」という中に先回のシルクのお話のコミュニティビジネスというものもこの中に入っています。

最後には、若者チャレンジ補助金といいまして、15歳から29歳までと年齢が制限されておりますが、若者たちが取り組みたい、やってみたいということに対して補助金を出すということで、こちらは何かに取り組んでいくという気づきのために、今、交付金とか補助金とか出しております。

ですから、これからは地域の方、市民の方たちが課題を解決するために何か興していく。その中から産業となるべきことは、皆さんが今までお話していただいたように支援する

ことが大事、サポートすることが大事だというようにことにつながっていくと考えています。

今日はそのところから、こちらに作手地域旧菅守小学校跡地の利用というものがお手元にあると思います。これを少し参考に、皆さんそれぞれの立場とか市民の立場からどうということが支援できるかということをお話ししていただきたいと思います。

こういう仕組みが必要ではないのかということではなく、今日は、もう具体的に、どうということが支援出来るということをお話ししていただきたいと思います。

それでは、少しこちらを説明させていただきます。

はねていただいて1ページ目になります。

1ページ、真ん中のあたりになります。取り組みのきっかけとあります。こちらは作手の地域になりますが、まず、小学校が作手の端っこ、南部と北部の方に小学校があったのですが、その2校が廃校になりました。

小学校というものは、田舎ですと地域の中心であって、コミュニティの場にもなっている。何かあることに、もう年寄り、老人、敬老会みたいな方たちからお母さんたちの会、また、子ども園の子も小学校に来たりと、運動会にしろ学芸会にしろ、地域の伝統文化に関しても、結構小学生が中心になって歌舞伎をやっていたりお祭りのお囃子とかをやったりというふうなことをしてきたのですが、その小学校が廃校になってしまう。そうすると、もう地域みんなが集まるようなところがなくなってしまふよねと、元気もなくなるということで、何とか小学校の跡地を利用したいということから、この小学校の跡地のことを考える組織が生まれました。

平成24年にグループ、つくでスマイル推進協議会ということで組織を、平成24年に考え始めまして、平成26年に組織を立ちあげて事業を進めていく訳ですけども、これ

は旧菅守小学校という北の方にある学校と、南の方にある協和小学校という学校。2カ所で取り組んだのですが、きょうは菅守小学校の方を説明させていただきますが、活動の概要の中に、旧菅守小学校区では廃校とされた旧菅守小学校を交流拠点施設と考えまして、地区全体を里山博物館と見立て、特色ある都市農村交流を図るということで、国の事業を使って体制整備を始めました。

小学校の給食室、すごく、人数が20人とか30人とか小さいところだったので、給食室の隣にカウンターがあって、そこからランチルームといって、この部屋の半分ぐらいのところ、もう内装は全部木の、木で囲ってあるようなところで、みんなで給食を食べるところがあったので、そこを使って、まず食事、地域の特産を使った食事を提供しようということから始まっております。

愛知百名山とかにもなっているような竜頭山という山があたりして、そこも登ったりできるよねと、作手にはバイクの方がたくさん遊びに来るものですから、そういう方たちもいるよねと、あと、サーキット場があるのです。一周1.5キロメートルぐらいのサーキット場が。2つあるのですけれども、その奥の方にもサーキット場があって、そこへ車に乗って来る人もいるということで、レストランを始めました。

2ページ目、中段になりますが、本年度、これ、平成27年度と平成28年度の内容が書いてあるのですが、廃校を交流拠点として四季折々の料理を提供して、平成26年8月6日に始めて約2年で6,000人弱のお客さんが、今、来ているそうです。

また、地域のシンボルでは、と書いてあるのですけれども、小学校に桜の木が、学校なのでよく、たくさん植わっていたのですけれども、そちらがてんぐ巣病という病気に、ソメイヨシノだったので病気にかかりやすくて、病気になってしまいました。これは、本日、

見えていますが、松本さんのところをお願いして、UFJさんからお金をいただきまして、しだれ桜を植えたり、植栽をしております。

ピザ釜をつくったり、技術室もあるので木工体験ができるようにして、そちらの体験も少し来ていております。

ハイキング調査というものも、皆さんで山道を調査したりしながら、お客さんが来ていただけるような整備をして活動をしました。

2ページ、一番下には、情報発信ということで、つくでスマイルというインターネットのサイトを準備させていただきまして、地域の方にライターにもなってもらうように、ライターの勉強会もさせていただいて、今、市内外から、今年の5月末時点ですが、5月は9,800件ほどのアクセスがあったというデータが出ております。

3ページ、ここの取り組みの結果なのですが、いかにせん、地域の方たちが国のお金をいただいて、条件整備、給食室を使えるようにしたり隣の調理室で加工品が出せるように保健所の許可をとって営業しているのです。取り組みの結果は見たとおりなのですが、初めて廃校の有効活用を試みました。交流人口、売り上げが目標を上回りました。廃校により地域がさびれ、活気がなくなっていく中で、今回の事業によって地域の人が協力するようになって、活性化への機運が見られるようになりました。

今後は、いかにこの取り組みを継続していくかが課題となります。

また、廃校を活用したということで、テレビとか雑誌に取り上げられました。うまくいきました。

といって、普通に平成28年も取り組んでいるという状況です。

今、3ページ目の取り組み結果というところを見ているのですが、人がたくさん来てよかった、テレビや雑誌にも取り上げられました、というところで満足しております、こ

れからは何も手を加えていかなければ、こんなことはよそでもやっていますし、ということに伴走支援事業のようなことをしていくには、これで皆さんだったらどういう支援がしていけるかということをお話ししていただきたいのですが、次、5ページ目は、国の事業を、このような事業を使ってこのようなことをしましたということが、5、6、7ページと書いてあります。

9ページ目が、平成26年度、自分たちの実績の評価。

11ページ目が平成27年度の自分たちの評価。

13ページ目が平成28年度の取り組みの状況。

14ページ目が実施結果です。14ページ目、一番上は利用者。これは土日祝日しか営業しておりません。2番目は平成27年度の売り上げ。一番下は平成28年度7月中旬までの売り上げとなっております。

このように、地域活動交付金とはちょっと違いますけれども、今後、新城市で地域活動交付金とか「めざせ明日のまちづくり事業」というものを、市民自治とか地域自治というところで年に数個ぐらいは何とかしてあげたいというものが出てくる可能性があります。そういうものをぜひ皆さんが、どのような形で支援がしていけるかということをご皆さんでこれから協議していただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○鈴木誠協議会長 ありがとうございます。

またきょうも二手に分かれて議論していただきたいのですが、今、加藤さんから説明があったように、ここはつくでスマイル、作手の地域自治体の皆さんがつくでスマイルという事業体を立ち上げて、そして、現在、菅守のこの廃校跡地を活用しての山間地レストランのような事業の実験的なことを始めている。

そうは言っても、国の交付金なども活用しながら、交流人口は増えている。この地区は、こういう、今は御高齢の方とか農協とか、あるいは民間企業とか、そういったところを退職された方たちが力を合わせて、今、こういう事業を興して、そして、さまざまな経験者が皆さんの協力も得て、サイトも作ってインターネットの情報サイトを作って発信をしながらとりかかっているのですが、これをやめると、そうすると、作手地域の人口の流出とか交流人口の拡大への見通しに暗雲がかかると。この事業そのものもいいとか悪いとかではなくて、これからはこういう事業の自立ということが、この作手地域自身を、社会としての発展につながっていく、あるいはこの事業をやらないと作手地域のこれからの人口減少、さらには独居の高齢の方たちの無縁化が始まっていくというようなことにつながってってしまうのです。

ですから、何としてもこの事業が、現在、始まった交付金等を活用したコミュニティをつくっていく活動として、今、始まっていますけれども、これをどう支えていくことがいいのか、どのような方向がいいのか。もう本当、皆さんの御経験をベースとして、こういうことをやったらいいとか、そういう話し合いを、前向きな話し合いをぜひ繰り広げていただきたいと思います。

御自身の経験あるいは情報、こういったものを寄せ合って、どうこれを、やはり支えていくことが作手の地域自治の発展につながっていくのか、山間地の崩壊を防ぐ大きな手だてになっていくのか、新しいIターン、Uターンの人たちの職場をつくっていくことが、いろいろな角度から、きょう、話題等、交わしていただけたらと思います。

そういう趣旨ですので、どうぞよろしくお願いします。

今から二手に分かれますけれども、進行はまた佐藤さんと松本さんをお願いをして、グ

ループの皆さんが活発に意見の交換とか議論ができるように、またお願いしたいと思います。

それでは、時間なのですけれども、皆さんの、今、お手元の時間で、8時半をめぐりに一度議論をしていただけるようお願いしたいと思います。その後で、それぞれのグループで出された論点、ここのところを進行いただく松本さんや佐藤さんでもいいし、皆さんに一言ずつ言っていただくということでもいいと思いますので、そういう時間を使って、9時には終わるようにしたいと思います。

よろしいでしょうか。

では、これからの時間、どうぞ御協力よろしくをお願いします。

○白井商工政策副課長 ありがとうございます。

それでは、2つのグループに分けさせていただきます。

まず、Aグループは佐藤さんのグループとさせていただきます。菊川さんと石田さんと澤上さん。

Bグループは松本さんをリーダーとして、河合さん、梅津さんと大石さん。

村松さん、済みません、Aグループでお願いいたします。

○鈴木誠協議会長 いいですか。

○白井商工政策副課長 名前を呼ばれていない方はいらっしゃいましたか。

よろしいですか。

○西田主任 済みません、伴走支援事業で、僕、先ほど御説明した中で、すごくさらっと説明し過ぎたので、もう少しちょっと具体的にお話ししたいなと思うのですが、よろしいですか。

○鈴木誠協議会長 はい、いいですよ。

○西田主任 まず、これまでの協議会の中で、皆さんに出していただいた意見の4点、きちんとお金を稼げるようにすること、担い手を見つけること、寄り添って前に進んでいける

ような人がいること、みんなが応援する雰囲気づくり、この4点について、ちょっと踏まえながら支援事業として御説明させていただきますと、まず、この伴走支援者というのは、地元の起業家とか、そういった起業家を支援したい方をイメージしています。この起業家たちに相談するような窓口を設けて、そこで企業家たちが寄り添って伴走支援していくわけですが、お金を稼ぐ仕組みとしましては、その起業家に支援するようなプロの専門家とか、あとは地元の事業者とかに相談してもらうようなイメージでいます。

担い手を見つけるというところは、先ほど、加藤から説明させていただいたように、地域から上がってくるような事業の芽をそこで育てるようなイメージでいます。

最後、みんなが応援するような雰囲気づくりということですが、新城市から下の方に伸びているような赤い線で各種補助金とか情報発信というところですが、この情報発信という部分で、事業者さんたちの情報を発信することで、市内の事業者さんや市民の方にそういった方がいるということをお伝えして、例えば、そういった資金に困っている部分があれば資金提供をしたり、事業者さんであれば自分の持っている技術でこのような支援ができるとか、そういったような情報をこの伴走支援事業の中で示していただけるようなことができればと思っています。

以上です。

○鈴木誠協議会長 よろしいですか。

○西田主任 はい。

○鈴木誠協議会長 では、また2つのグループの中で議論を進めながら、また事務局から、このようなことをイメージしていると、ヒントでも出してもらっていいと思いますし、もう、そこを超えてどんどんとそれぞれの御経験を、この資金を使ったほうがいいのか、ここは協力できるとか、いろいろと、今日、お披露目していただける情報があってもいいの

ではないかなと思います。

では、早速始めましょう。

では、よろしくお願いします。

(佐藤班討論開始)

○佐藤真琴委員 では、よろしくお願いします。

今お話があった、2年かけて立ち上げてみて、そこそこやってみたけれども、3年目以降、では、これを大きく育てていくときにどのような伴走の支援、皆さんだったらアイデアとしてありますかということをお話していきたいと思うのですが、皆さんはきっとこの、今、私の小さいiPhoneの画面で恐縮ですが、このページはご覧になったことはありますか。つくでスマイルというページ。

○澤上花子委員 ないです。

○石田靖典委員 一応、僕もライターの人です。

○佐藤真琴委員 どうですか。

○石田靖典委員 講習は受けたのですが、結局、トマトが忙しくなり過ぎて、何も出来ずに。

○佐藤真琴委員 講習は受けたけれども、本業が忙しいということですね。

○石田靖典委員 本業が始まったら何も出来なくなってしまう。

○佐藤真琴委員 これはボランティアなのですか。

○石田靖典委員 ボランティアです。

○佐藤真琴委員 1本書いたら幾らとかフィーはあるのですか。何も、ゼロ。

○石田靖典委員 はい。

○佐藤真琴委員 なるほど。

お聞きしたかったのは、私、何かすごく勉強不足で知らなかったのですが、これ、3月で更新がとまっているのです。

最後が3月の何かイベントの「つくで田舎

レストランすがもり」の営業日について書いてあるのですけれども、そこから先、書いていないので、これはみんな見ているのかなと。

誰が書いているのだろうとちょっと思ったのですけれども、なるほど、そういうことだったのですね。

特に、これ、では、何か書いてくださいとか、来るのですか。

○石田靖典委員 ないです。

○佐藤真琴委員 では、書かなかったらゼロ記事。

○石田靖典委員 もう、とりあえず好きにやってという形で、IDとパスを渡されて、たしかどなたか、記事を書いて送るだけ何かすればよかったと思ったのですけれども、講習を受けたのが2年以上前。研修生では3年近くになるのかな。

○佐藤真琴委員 3年前に受けて、もうそのままになってしまっているのでしょうか。

○石田靖典委員 はい。

○佐藤真琴委員 では、これは、ちなみに、では、どんなことがあったら石田さん、書き続けていましたか。1回書きましたか。

○石田靖典委員 書いていない。もう無理でした。本業、もうとりあえずは研修生時代の冬だったかに講習を受けて、もうそこから開業の準備だ何だとなってしまって、そのイベントがあれば書いて、作手もちよこちょことイベントがあるので、書こうと思えば書けたとは思いますが、いかんせん、私がイベントに参加しなかったということがあって。あと、秋もつくで祭りという形で、作手の中では多分一番大きい祭りみたいなものやっています。来月ですとラリーが、鬼久保のラリーがあって、ちょこちょこと人を呼べそうなイベントはやっています。

ただ、講習を受けた人たちが、やはりちょっと年配者が多かったのです。

○佐藤真琴委員 その人たちが書かないのではないかなという感じ。

○石田靖典委員 うん、パソコンの使い方もどうなのという方たちが多かったのです、多分、更新を上げているのは、地域おこし協力隊とかあの辺で来られている方がメインで上げているのではないかなと思うのですけれども。

○佐藤真琴委員 では、これ、情報をアップし続けていくためには、何かどのようなサポートがあったら、サポートというのは、何か石田さんを支えるという意味ではなくて、何か書く人を支えるとか、どのような書き手がいたらこの情報発信はできるのでしょうか。

○石田靖典委員 一番早いのは、役場の人間に頼むことが一番早いといえば早いですね。

○佐藤真琴委員 それは、やはりみんな忙しいという。

○石田靖典委員 作手だと、サラリーマンをやっている人も、結構、土日に居なかつたりとかしますし、やはり工場勤務が多いので、夜勤とか。あと、地元の祭りといっても、小さい子供がいる方は行くのですけれども、いない方は行かない。どちらかという主婦をつかまえた方がいいと思うのですけれども、主婦自体数が少ない。

あと、そのつくでスマイル自体を多分知らないということがあると思うのです。

○佐藤真琴委員 その辺はどうなのですか。つくでスマイルは知っていた。

そもそもつくでスマイル自体が、つくでスマイルの認知度が低いのですか。

ちなみに、この中でつくでスマイルを知っていたという方は。

○石田靖典委員 僕も地域おこし協力隊の子にライターになってと言われて、そこでこういうものやっていると知ったので。多分、誘われなかったら、言われなければ、知らないままかもしれません。

○佐藤真琴委員 それ、どうしたら声かけが出来たのですか、もっといろいろな人に。

○石田靖典委員 広報誌とかにもちょこちょこと載っていたと思うのですけれども、多分、

読んでいないです、みんな。

○佐藤真琴委員 広報しんしろみたいなのですか。

○西田主任 はい。

○佐藤真琴委員 では、広報の仕方が何か違ったらいなという感じなのですか。

どんなふうに変えていったら、例えば、村松さん、御存じなかったですね。

○村松 東委員 レストランさえ知らなかったです。

○佐藤真琴委員 やってたんだ、みたいな。

○村松 東委員 道の駅しか知らないです。

○石田靖典委員 あの奥です。あそこから20分ぐらい奥です。

○村松 東委員 北の方にですか。

○石田靖典委員 北の方にです。ずっと奥です。

○村松 東委員 豊田から抜けるあたりに曲がるのではなくて、ずっと真っすぐ。

○石田靖典委員 ずっと真っすぐです。

○村松 東委員 あの道はどこに行くのだろうというも思っていたぐらいで。

○石田靖典委員 あれをずっと奥に行くと滝があって、滝のところでどん詰まりになっていてT字になっているのです。左に行くと足助の方に行くと、右の方は設楽の方に行くという道があるのです。

○村松 東委員 本当はかなり奥にあるのですね。

○佐藤真琴委員 ものすごいローカルな説明をしないと分からないぐらい認知度が低いということだけは分かったね。

○石田靖典委員 正直、菅守小学校自体、交通の便がすごく不便なのです。ですので、その菅守小学校をメインに行くのだったらいいですけども、その通り道に寄っていかうとなると、まず通ることにはないです。

301号線から外れてしまうのです。

○佐藤真琴委員 もうメインの道路から外れてしまっているから。

○石田靖典委員 外れてしまうので。

○佐藤真琴委員 では、何か通りすがりに見るなんてことは。

○石田靖典委員 いや、ないです。

○佐藤真琴委員 もうない。

○村松 東委員 あの道の駅に何か看板とか作ったりして誘導するような。

○石田靖典委員 小さなものはありました。でも、岡崎とか豊田から行く人は、301号線から上がってきたり、301号線から下っていたりするではないですか。そうすると、その301号線から外れて10分ぐらい車で行かないとないので、知らない人は知らないし、寄らなくてもいいかなとなってしまふ。

○佐藤真琴委員 広報先として、道の駅というお話があったのですけれども、地域の方は道の駅は行くのですか。

○石田靖典委員 あまり行かないかな。

○村松 東委員 作手の人がということですね。

○佐藤真琴委員 そう、そう。つくでスマイルユーザーみたいな人。行かないのかな。

○石田靖典委員 あまり行かないですね。

○西田主任 客層が地元の人が3割ぐらいかな。7割が外部の人で、外部の人でも何で知ったかというも、もつくる新城にチラシを置いてもらうようにしているので、そこでもつくるのコーディネーターが食事するならこちらがいいですよと案内していただいて来るお客さんが多いのと、地元の3割というものも卒業生、OBの方がよく来ます。

○佐藤真琴委員 そのOBというのは、あの小学校の。

○西田主任 そうです。卒業生。

○佐藤真琴委員 卒業生。

○西田主任 はい。

○佐藤真琴委員 OB、OGが来るということですね。

○西田主任 はい。

○佐藤真琴委員 ということは、もうそれ以

外の人は、地元の人には知らない。

○西田主任 活動自体も多分そんなに知らないのかなど。

○石田靖典委員 一応、やっているのは知っています。

ただ、開業当時は結構ちょこちょこことみんな行っていたみたいですが。

○佐藤真琴委員 それで、新しい人を、お客さんをつかまえて続けると経営が苦しくなります。きっと立ち上げの2年は珍しいこともあって、みんな、広報もちょっと載ったから来たけれども、リピートして年に5回は行くという施設ではないのですか。

ということは、やはり今の状態のままですと苦しくなってしまうですね。

○澤上花子委員 シシ肉などを使ったジビエ料理だったということで、そういうものを好まなければ、最初は珍しくて行っても、もう2回目はいいかなという人が。でもそれを珍しくてやはり外から呼ぶ、地元ではなく外から呼んで観光にするとか。

○佐藤真琴委員 1回体験みたいな。

○澤上花子委員 うん。

○佐藤真琴委員 さあ、それは厳しいです。みんな知らなくて広報もできていないということは、やはり経営が苦しくなるのではないのですか。

○澤上花子委員 そうだね。

○佐藤真琴委員 だから、どうしていったらいいですか。菊川さんは企業だったら、もし、これ、集客していくとしたら、何が足りないのですか。

○菊川倫太郎委員 そもそもこれ、あれなのですか。私、ちょっと聞き逃したから分からないですけども、誰が運営しているのですか。

○佐藤真琴委員 そもそも誰が運営しているのですか。もう運営母体すら分からないという話になってきました。

○石田靖典委員 誰がトップかはちょっと分

からないですけども、働いている方は菅守地区のおじいちゃん、おばあちゃんがメインになります。

○佐藤真琴委員 運営母体はどこなのですか。

○石田靖典委員 どこなのだろうな、個人になるのかな。

○西田主任 運営母体はつくでスマイル推進協議会で、構成員は卒業生の地元の菅守地区の方。

○菊川倫太郎委員 これ、誰が困るのですか。お客さんが来なくて収入が減っていくことで。

○石田靖典委員 結局は、その菅守小学校を残そうというのが第一の目的みたいなものなので。

○菊川倫太郎委員 ああ、そういうこと。

○石田靖典委員 多分儲けようということは、そこまでないのではと思います。

○佐藤真琴委員 これ、小学校を残そうという話でやっているのではないですか。本当にこの方法がいいのかどうかということは、ちょっと議論はこの時間では出来ないんで、それは今回横に置いておかせていただいて。

その小学校を残すために、やはりある程度この事業が回って、たとえ補助金であってもきちんとインパクトを出し続けて、補助金をもらい続けなければいけない訳ですよ、きっと。そのために、私たち、その周りのちょっと心ある人たちは、どのような、もし自分だったらどのような支援ができるかなというものを幾つかちょっと挙げてみたいのですけれども。

では、村松さんだったらどのようなものを思いつきますか。立場として。

もうちょっと一個人でもいいですし、もう立場としてでも。

○村松 東委員 支援、難しいですね。

○佐藤真琴委員 何かお手伝いできることというようなレベルでも全然。

○村松 東委員 新城市民として利用してあげるといったことが現実的に、地域でやってい

ることを続けていくためにみんなで行ってあげるといふ、リピーターになってあげることぐらいですかね。

○佐藤真琴委員 そうですよ。飲食店とかは、結局それですもんね。

○村松 東委員 そうですね。そのためには、本当にこのレストランのことを知らなかったですし、ネットで検索しても写真もあまり出てこないですから。メニューも出てこないし。

○佐藤真琴委員 写真も出てこないのですか。

○村松 東委員 はい、せっかくこういうサイトがあるのに、この中にレストランのサイトを作ったらいいではないですか。

○石田靖典委員 やっているのは大体60歳を超えたおじいちゃん、おばあちゃんなので。

○村松 東委員 ただブログの集まりみたいになってしまっているだけで、せっかくこういう、このお金がかかってこういうものがあるのだったら、ここに載せれば簡単なと思うのですけれども。せめて外観とか食べるところとかメニューが載っていたら。

○佐藤真琴委員 利用してもらうために、ウェブの中にもっと見えるように、見える化していくという感じですね。ちなみに、食べログモレッティも入っていないですよ、きっと。

○村松 東委員 食べログは載っていました。

○佐藤真琴委員 載っていました。

○村松 東委員 写真が3枚あります。

○石田靖典委員 本当でしたら、中でやっている方がブログでも作ってずっと上げ続けてくればいいのですけれども。

○西田主任 ちなみに、今年から地域おこし協力隊の子が入って調理を担当しているのですけれども、調理と一緒に情報発信の方ということで、フェイスブックページとか立ち上げて、そちらでも情報発信などをしています。

○佐藤真琴委員 仕組みがあっても、出来ないものは出来ないではないですか。

○西田主任 はい。

○佐藤真琴委員 これはどうしたら出来るようになるのかなと思うのですけれども、どうしたら出来るのですかね。

みんな行くということもいいですよ。

行きましょうと声をかけるには、どうしたら声をかけたくになりますか、澤上さん。

友達3人誘って行きたくなるかな。4人でちょっと行っちゃう、みたいな。

○澤上花子委員 私も1回行ったことがあるのです。

○佐藤真琴委員 どうでしたか。

○澤上花子委員 本当に学校の跡なので、給食室みたいなところにこんなテーブルが並んでいて、みんなでばつと何か食べるイメージ。

○佐藤真琴委員 なるほど。

○澤上花子委員 だから、こじんまりしている訳でもなく、広い部屋の中でテーブルごとに食べているイメージ。地元の人たちが集まって、キャンプみたいな感じに来る人がそこで昼に食事をとるとか、そのような感じなら楽しいかもしれない。子供たちも。川遊びがあつて何かがあつて、では、そこで御飯を食べてというなら、家族で来るなら楽しいかなというのはあります。

○菊川倫太郎委員 何かあれなのですか、ノスタルジーを感じるようなつくりなのですか。

そういう訳ではないのですか。

○佐藤真琴委員 普通の給食室ですか。

○菊川倫太郎委員 普通の食堂という感じなのですか。

○澤上花子委員 普通の給食室というイメージはありました。黒板に何か、黒板にいろいろなものがチョークで書いてあつたのですけれども、今日のメニューとか書いてありました。

○佐藤真琴委員 デザインセンスの話。

○澤上花子委員 はい、学校の跡地。

○菊川倫太郎委員 何か私のイメージだと、

学校を残したいというところから始まっているので、例えば、我々とかもって年配の人からしたときに、ノスタルジーを感じるような、何かそんなものだとちょっと魅力がある。それこそ、もう、まだ小さいけれども、小学生が使っている机と椅子に座って何か食べるとか、いや、そうになっているのかどうか知らないですけども。

○澤上花子委員 そうですね。そういうものを残せば、また楽しいかもしれないですね。

○菊川倫太郎委員 そういうものはすごく、それだと興味が湧いてくるかなと。

○佐藤真琴委員 その魅力を持たせるということですよ。

○澤上花子委員 何かテレビで見たことがあったのですけれども、その小学校の跡地を教室ごとに、おしゃれに。

○菊川倫太郎委員 何か私も見た。

○澤上花子委員 見ました。

○菊川倫太郎委員 どこかで何かありましたよね。

○澤上花子委員 うん。

○菊川倫太郎委員 ぶらり旅的なやつで何かやっていたよね。

○澤上花子委員 そう、そう。それで、教室に入ると、その教室ごとに何か違いがあるのだけれども、黒板をきちんと残してあって、それを何かうまく活用しているのです。

○佐藤真琴委員 雰囲気をつくっているのですね。

○澤上花子委員 そう、そう。

○佐藤真琴委員 そういうものは、何か、どうしたら出来るのですか。それ、何かお金を使ってデザイナーを入れるしかないのですかね。

○澤上花子委員 と思うのだけれども、それかそこに、そういう子を雇うとか。例えば、そういうセンス。

○菊川倫太郎委員 もともとコンセプトですもんね、そこは。

○澤上花子委員 そういうセンスのある子を、ちょっと改善してもらうためにまちのそういう主婦を使うとか。

○菊川倫太郎委員 先ほどあった、地域の方の交流できる施設として残すみたいなの、何かそういう意図もなかったから、別にそれが本当の、もともとのコンセプトだったら、余りそうやっておしゃれにするとかなんとか、ノスタルジーとかいうことは余り関係なくて、多分。その場所を残すことがありきなのですよね、きっと。

○澤上花子委員 そうですね。

○菊川倫太郎委員 やはり、先ほど、誰が運営していて誰が困るのですかという話をしましたけれども、やはり、一応、商売でやっているから、金銭面で誰が困るのだというところがないと。

○澤上花子委員 だから、そのホームページも、多分、それだと思うのです。

○菊川倫太郎委員 そう思います、やはり。

○佐藤真琴委員 ちょっと話が飛んでしまうのですけれども、当事者がいないということかなと思うのですけれども、そういうことなのですかね。

例えば、自分の自宅を改造したカフェとかだったら、お客さんが来なかったら超困るから、超頑張りますよね。

○澤上花子委員 そう、そう。

○佐藤真琴委員 そういうことですよ。

○澤上花子委員 そういうことです。

○佐藤真琴委員 言い出しっぺがもっと頑張るような仕組みだったらいいかなというふうに思われると。では、自分がもし言い出しっぺだったら、何か3つぐらいやれることは、花子さんだと何かありますか。何をやります。

○澤上花子委員 言い出しっぺだったら。

○佐藤真琴委員 うん。

○澤上花子委員 そうだね。そうしたら、本当にそこでしか食べられないスイーツとかつくる、私の場合は。

○佐藤真琴委員 いいですね。

○澤上花子委員 私はお菓子だから。ここに来たら特別にこれが食べられるよ、というような、そのランチの中につけるとか。

でも、食材は本当に難しく、私も、今、そのスイーツクラブという新城市が立ち上げてくれたものに入って作って、もっくるで販売ということになっているのだけれども、シイタケのパウダーとかホウレンソウのパウダー、梅とかは、地元でもたくさんあるから、それを使って作ってと言われても、やはり難しく、好みがすごくはっきりするから、もう梅、だめ、と言ったらだめなのです。

○佐藤真琴委員 これ、梅を使った瞬間にだめと。

○澤上花子委員 そう、だめ。だから、一生懸命作ったのに、本当に戻ってくることが多くて、もっくるに置いても。

何か自分は頑張ってるのに戻ってきてしまうって、本当、悲しい、と思いつつ、その繰り返しで、でも、それを続けるべきなのか、それはもう全部自己負担なので、何かこれをやっていたら回っていかないなと思いつつ、そこはもう悩んで今やっているのだけれども、けれど、やはり食材を活かす、本当にその食材でもみんなが食べてもらえるようなものを作るということは本当に難しいなと思いつつ。でも、何かその食材をうまくもっとみんなに知ってもらうために作り続けなければ、それはみんなの所には届かないから、その作り続けていくための支援か何かがあると、そうやってそのジビエの料理でも何でもそうだと思うのだけれども、何か続けていくための支援が欲しい。

○佐藤真琴委員 例えば、そのつくでスマイルのその食材で何かメニューを改善していくときに、食材ありきなのかおいしさありきなのかちょっと選んだほうがいいけれども、どうしてもそれを続けるのだったら支援があったら続けられるかなということですか。

○澤上花子委員 そう。

○佐藤真琴委員 ここには食材ありきだったら結構冒険ですよ。売れなくても作らなければいけない。

○澤上花子委員 そう、私、今、そういう状態なので。

私は好きなのです、シイタケを入れたものは意外と風味がよくて。野菜とかもおいしいと思うのだけれども、でも、この食材を使っていると指定されてつくったところで、これ、誰が食べるのだろうかと、やはり私もシイタケ嫌いと言われたら、もうそれでアウトだし。

○佐藤真琴委員 売れなくてもそれを作り続けるための支援が何か欲しいかなということですか。

○澤上花子委員 そう。私は今やっていてそれを思うから、多分、そこでも。

○佐藤真琴委員 現場の声ですよ。

○澤上花子委員 そう、そう。

○佐藤真琴委員 あとはもう一個ぐらい。雰囲気とかはどうしたら変わるのですか。

○澤上花子委員 雰囲気か。

○佐藤真琴委員 主婦の人に変えてもらうとかいう。多分主婦はユーザーに近い人という意味だと思うのですけれども。そういう意味ですよ。

○澤上花子委員 何かそういう知識を持っている子はやはりいると思うのです。センスのある子とか。

何かそういう子を、そういう子で何も仕事をしていないとか、パートで雇えるような形になれば、そこでその子が活かしていけるものが何か出てくるのかなとか。その子の収入にもなるし。

そうすると、年配の方にはない知恵が生まれる、持っている人が多分いるから、何かもっと若者が寄るような、そういう施設に改善できるのかなと思ったり、でも、それはどうかな。

○佐藤真琴委員 働く場所を提供すると、働く場所というかその仕事のコンテンツとしてここにデザインをやってくださいということを提供すると、いろいろな人が関わってくれもって若い人とか利用するかなという感じですか。

○澤上花子委員 そう、そう。そうです。

○佐藤真琴委員 客層が広がるかもしれないですね。すばらしいですね。そうしたら、何かこの給食室にわくわく感がでて、女の子3人誘って4人で御飯を食べに行こうとなりますよね。何かキッチンなバーとかカフェとかでも、別にすごい綺麗とかではないですよね。何か雰囲気づくりがうまいなというところがいっぱいありますよね。

○澤上花子委員 そう、そう。

○佐藤真琴委員 雰囲気、大事ですよ。

○澤上花子委員 そう、そう。

○佐藤真琴委員 そうか。

○澤上花子委員 やはりそこで何か食べるものにそんなに差がなくても。

○佐藤真琴委員 ちょっといい気分みたいな。

○澤上花子委員 そう。

○佐藤真琴委員 楽しい気分。

○澤上花子委員 その空気に触れるだけで何か良くなるという。

○佐藤真琴委員 楽しいという雰囲気は大事だと。

○澤上花子委員 そう。

○佐藤真琴委員 そう雰囲気がよくなったら、ウェブとか広報の話に戻りますけれども、それ、写真に載っていたら男性陣は行きますよね。

○村松 東委員 うーん。

○澤上花子委員 やはり男の人と女の人の違いが。

○村松 東委員 いや、田舎にもし、そこを目指していくのだったら、例えば、五平餅とか、都会ならパンケーキとか、何か食べたいものがないと行かないかなと。雰囲気ではちょっと。

○石田靖典委員 僕はあそこを通ったことが何回かあるのでわかりますけれども、僕も同じです。

○村松 東委員 何か本当に、ここだったら食べたいものがあるとか。

○菊川倫太郎委員 よっぽどのことですよ。そこでしか食べられないものですよ。

○澤上花子委員 そうですね。

○菊川倫太郎委員 味なのか、それが材料なのか。

○村松 東委員 作手は五平餅がありましたか。

○石田靖典委員 あります。

○村松 東委員 それだったら行くかな。そういうものがもしみんなに広まったら、そこでやっていたら食べに行くかなと。

○石田靖典委員 あれも、本当に地元の人間とごく限られた人間ぐらいしか知らないです。

○村松 東委員 そうなのですか。

○石田靖典委員 地元の人間も多分知らない人は知らないです。

給食室ですが、僕だったら、もう方向を変えてしまっ、バイクとか車で上がってくる連中のイベント会場という感じで開けてしまっ、イベントがあるときにピザ釜を使ってピザを焼いたり、あとは飲み物を提供したり、あとはちょっとしたつまみとしてフライドチキンとかフライドポテトとかそういうものを提供するような場に変えてしまいます。

○澤上花子委員 道の駅みたいな感じで軽く入れるような。

○石田靖典委員 そうですね。道の駅、あそこは校庭があるので、車とかバイクとか結構停めることができますし、あとは自転車も結構上がってくるので。

○佐藤真琴委員 自転車で行くのか。

○石田靖典委員 ただ、ルートの的に外れたところにあるので、サイクリングで来る人も結構いるので、その人たちのために場所を提供するとか。

○佐藤真琴委員 先ほど、何か村松さんがおっしゃった、すごい真理だなと思って。そこまで行かないとどうしてもその本当の欲求を満たすことができないようなものがあつたら行くという話があった、それは真理ですよ。もしくは、そこまで行くもともと欲求がある人は、バイクの人とか自転車の人とか、そういう人にそこで楽しんでいただくという、そういうふうにしていったらこれはいいのかもしれないですね。

今、これは、お話を皆さんでしてくださったことは、まさに伴走支援とかそういうものそのものだと思うのです。誰も本気になってこのようなことを話さないではないですか。当事者になって考えてみたり意見を言うということが、もう伴走支援そのものだと思うのです。

こういうその場、そのものをつくってみるということが1つ、それは有効だと思いますか。

○菊川倫太郎委員 菅守小学校は市の持ち物なの。

○西田主任 はい。

○菊川倫太郎委員 土地も建物も市の持ち物ですもんね。だから、今、何もしなくて、取り壊すお金も困っている。でも、そのまま置いていたらそれなりに管理費がかかる。管理費ぐらいは何か稼げるようにというような感じなのですか。

○西田主任 結構、菅守については、地元がもったいないから使いたいという意見があります。

○菊川倫太郎委員 それが最初で先なのですか。

○西田主任 はい。

○佐藤真琴委員 菅守、つくでスマイル、こういうものを何か支援していくときに、皆さんに何か情熱は湧きますか、今の状況で。

何かないのかなとすごく思っているのですけれども。

何か情熱が湧かないことは助けられないかなと、ファシリテーターの人がそんなことを言うてはいけないのですけれども、情熱が湧かないものは助けられないかなと思うのです。どう思われますか。

○石田靖典委員 正直、作手の中でもかなり北の方なので。

○佐藤真琴委員 やはりそうなのですね。

○石田靖典委員 うん。

○佐藤真琴委員 先ほどから聞いていると、すごい僻地にあつて、あえて行かないだろうみたいなところに。

○石田靖典委員 うん、かなり僻地です。

○佐藤真琴委員 それで、そんなにコンテンツとして何か地元の人とは別にと。それでも残さなければいけない何か理由は、そこそこある訳ですよ、きっと。新城としての課題としてある訳ではないですか。

○澤上花子委員 でも、そこに雇用が増えたということですよ。働きに来る方が、地元の人が。

○西田主任 はい。

○澤上花子委員 働きに来て。

○佐藤真琴委員 一応、雇用は生まれているのですね。

○澤上花子委員 うん、ですよ。

○佐藤真琴委員 でも、これ、結構、新城の問題だと思うのですけれども、壊すお金は皆さんの税金ではないですか。

これ、本当に有効活用できたら、ランニングが出てプラスになるわけではないですか。税収になるわけではないですか。今の時点だと、多分、コストセンターですよ。お金ばかり出ていってしまう、放っておいても何もやらなくても出ていってしまう、やっても出ていってしまう。だったら、改善した方が皆さんの市のためにはいいですよ。

○石田靖典委員 自分の得になるというものが感じられない。

○佐藤真琴委員 自分事でもない。

○石田靖典委員　そこでうちのトマトを買って来て、置いて来て、売れるというのだったら、多分、こちらからも必死になると思うのですけれども。多分、トマトも産直とかで買って使っているとは思いますが、でも、産直も別に普通に他市では売れるので、今は。

○佐藤真琴委員　その情熱は、そうですね、別に新城市の税金とか、普段、余り皆さんの生活には関係ないですね。

○石田靖典委員　ないですね。税金が減ったら公務員の給料を減らせという話になってしまうので。

○佐藤真琴委員　西田さん、ピンチだよ。給料のことを真剣に考えた方がいいのではないの。

これ、では、誰が当事者なのですか。

○石田靖典委員　わかりません。当事者がその菅守、あの地域の間が当事者だとしたら、その当事者が盛り上げていくのが一番いいとは思っているのですけれども。

○菊川倫太郎委員　周辺には、基本的には何もないのですか。

○石田靖典委員　ないです。

○菊川倫太郎委員　そこに集客があって、周りも潤うとかということも。

○石田靖典委員　ないです。

○佐藤真琴委員　ないのだ。

○石田靖典委員　ないです。

○佐藤真琴委員　そんなに何も無いところなのですか。

○石田靖典委員　何にもないです。

○佐藤真琴委員　もう、何か私の想像を、今、超えているのですけれども。

○石田靖典委員　あるのは、100メートル間隔に家があったり、でも、あそこは何もないです。菅守地区は。

○村松　東委員　そんなところで1日30人来るって。

○佐藤真琴委員　それも脅威ですよ。

○村松　東委員　そんなところで30人、来るんですね。

○石田靖典委員　菅守地区は昔からやっているトマトハウスがちょろっとあって、あとは本当に、こう言うは何ですけれども、極めて過疎化が進んだ地区があるぐらいです。

○佐藤真琴委員　そんなところに、村松さんがおっしゃるとおり、土日しかやっていなくて人数が来るということが、何か私にとってみれば驚異です。

○澤上花子委員　でも、子供は連れて行ってあげたいとは思ったり。やはり何か、あそこ、作手はパン屋があったりとか、何かちょこちょこ探せば。

○石田靖典委員　結構雰囲気の良いコーヒーを出すところだとかもあるの。

○澤上花子委員　そう、そう。あるのです。だから、そういうところも兼ねながら、そこで御飯を食べて、一日作手で遊んで帰るとか、やはりそういう家族連れをターゲットにすれば。

○石田靖典委員　作手は遊ぶところがあまりないですよ。

○澤上花子委員　そうか。

○石田靖典委員　あそこも「わっ」というものが無いのです。

○佐藤真琴委員　でも、今おっしゃったパン屋があって、カフェがあってとか、その作手コンテンツ、プラス、ポジティブな意味の作手コンテンツ。

○澤上花子委員　あと、あれも、動物の広場もありますよね。

○石田靖典委員　ありますね。牧場もあります。

○澤上花子委員　そう、牧場もありますよね。

○石田靖典委員　先ほども言いましたサーキットもあって。

○澤上花子委員　そう、そう。だから、子供を連れて行けば、多分、一日遊んで、上つても帰ってこられる。

○佐藤真琴委員 何でそういうことをウェブに書かないのですか、石田さん。

○石田靖典委員 いや、僕に言われましても。

○佐藤真琴委員 ライターなのに。

○石田靖典委員 僕だって本業が忙しいのですよ。

○佐藤真琴委員 それ、本業が忙しくて書かないわけですよ、結局。

○石田靖典委員 みんな、作手の人は結構、何やかんやいっていろいろなことをやっているのです。多分、定年を迎えてからの方が働いているという人ばかりなのです。

○佐藤真琴委員 どういうことですか。

○石田靖典委員 定年を迎えて会社をやめてから、シルバー人材へ行ったり、シルバー人材の方で草刈りとかを請け負いながら自分の田んぼのことをやったりとかしているのです。何か働いていたころよりも全然休んでないよと言いながらやっている。そう言いながら65歳とか70歳ぐらいのじいさんが。1軒だけ「松」という居酒屋があるのですけれども、そこにたむろして、みんな飲んでる。

○佐藤真琴委員 居酒屋もあるのではないですか。

○石田靖典委員 あります。お食事処「松」というものがあって。

○菊川倫太郎委員 あるじゃない、何だかんと言っても。

○石田靖典委員 何やかんやいってあるといえはあのですけれども、ただ、点在しているので、ぼつぼつと点在しているので。

○澤上花子委員 それをめぐるこういうマップみたいなものがあったりすれば、ここへ行って、こう行って、お母さんはパンが欲しいからパンを買って、みたいな。子供は動物と遊んで、みたいな、そういう1つのコースにしまえば。

○佐藤真琴委員 そうすると、地元の人も何か。

○石田靖典委員 ルートにしても、絶対に車

でないと絶対に巡れないルートです。

○菊川倫太郎委員 それはもうしようがないですね。

それは車にもう、初めからそこに絞るしかないではないですか、そこだったら。

○澤上花子委員 そう、そう。

○佐藤真琴委員 こういうルートづくりをして、マップにしますよというようなことを、結局やれるのは。

○石田靖典委員 一応、史跡めぐりというルートはあります。

○佐藤真琴委員 既にあるのですね。

○石田靖典委員 でも、それはウェブに出ていないですね。

○石田靖典委員 一応、道の駅には看板が出ています。1時間か2時間、もっとあったかな。結構長いコースでしたけれども、作手に行ったときに、作手に来たときに、一応、僕一人で巡ったのですけれども、2時間、3時間ずっと、結構ありました。

○菊川倫太郎委員 今はやりの日本一の星空みたいな、ああいうものが、山の中だったら星もきれいだったりして、何か阿智村でしたっけ、あちらで有名ではないですか。この辺もきれいなのではないですか。山の中だったら。

○西田主任 そうですね。

○石田靖典委員 一番いいのはあれです、松本さんに頼んで、お金、ちょっと億単位で借りて、温泉を掘って、宿泊施設を建ててやれば、多分、一発で客が来るようにはなると思いますが。

○佐藤真琴委員 やはり温泉とかコンセプトですね。湯谷温泉があるではないですか。

○石田靖典委員 あちらとは全然違います。

○佐藤真琴委員 何が違うのですか。

○石田靖典委員 離れ過ぎています。

あと、多分、作手の方は高いので、標高が。多分、その水脈を掘り当てるまでかなり深く掘らないといけないので、多分億単位です。

○佐藤真琴委員 作手で、何か作手で温泉とかおもしろそうですね。今、鉱脈は分かるのでよね、かなりの確率で。

○石田靖典委員 多分、掘れば出る可能性はあるとは思いますが。湯谷温泉があって、本宮の湯があるので、掘れば当たる可能性はありますけれども、ただ、費用がすごくかかる。

○佐藤真琴委員 そういうわくわくするようなことは、ちょっと考えられたらおもしろいですよね。

何かわくわくしませんか。

○石田靖典委員 いや、僕、多分あれです、BIGとか当てたら、多分、道の駅を買い取って、あそこに温泉を掘ります。校舎をぶっ潰してあそこにロッジとか建ててとかやります。多分、トマトをやるよりそちらの方がもうかると思います。

あそこ、本当にお客がすごく来るのです。バイカーも来て、自転車で来る人もいて、それで車もいっぱい来て。

○佐藤真琴委員 その道の駅はもつくるのですか。

○石田靖典委員 いえ、違います。つくで手作り村というものがあるのですけれども。

○澤上花子委員 豆腐屋もあつたりしますよね、上のところ。

○石田靖典委員 あります。

○佐藤真琴委員 手作り村には、人はたくさんずっと来ているのですか。

○石田靖典委員 もう毎日です。やはり冬の間は少ないですけれども、季節がよくなる春先から秋の終わりぐらいまでは平日でも結構人は来ています。

○佐藤真琴委員 何でつくで手作り村には別にそんな、こんな戦略とか考えなくても人が来るのに。

○石田靖典委員 人が来るだけで、ルートが、手作り村は国道301号線沿いにあるのです。この菅守小学校は、301号線を外れて10分ぐらい車で行かないと。

○菊川倫太郎委員 それでも10分ぐらい。

○佐藤真琴委員 それでも10分ぐらいなのですね。

○菊川倫太郎委員 もっとかなと思った。

○佐藤真琴委員 でも、それだったら、もし魅力があれば、そこに来てから、例えば、10分ルートを外れて、つくで手作り村のインパクトが強過ぎちゃってこの名前を忘れてしまいました。

○石田靖典委員 菅守小学校。

○佐藤真琴委員 そう、菅守小学校。

菅守小学校になぜ行かないのですかね。これもルートになれば行くのかな。何が違うのですか。

○石田靖典委員 一応、手作り村だと、道の駅なので御飯を食べるところがあるのですけれども、それ以外にフランクフルトがあるので、美河パークの。

○佐藤真琴委員 ちょっと行ってみたいですね。

○石田靖典委員 なのでそれ、大体、バイカーとかはそこでフランクフルトを食べて、また豊田の方へ行ったりとか新城の方に下りたりとかするので。

○澤上花子委員 何か野菜を売っていたり、私も作手に行くところへ寄るのだけれども。

○佐藤真琴委員 地元の人が来ている。

○澤上花子委員 野菜が安かったり、本当に。

○佐藤真琴委員 もう、ちょっと時間なので、ちょっと終わりにしたいなと思うのですけれども、まとめたいなと思うのですけれども、今日のそもそものコンセプトは、伴走支援とかするとしたら、皆さんは何ができますかということ話し合うということと、今後、同じような、作手みたいに立ち上げてみました、何とかうまくいきました、でもこの先、どうしましょうということが年に3本ぐらいは出てくるだろうという加藤課長の課題意識があって、それをどう拾っていくかと、事業をどう自立させていくかという2つの御質問があ

ったのです。

ちょっと後ろの方は何とも言えないのですけれども、この伴走支援をするとしたら何が出来るのかということは、何か皆さん、最初、もう事業を継続できないみたいな話だったのではないですか、もうみんな諦めムードしかなかったのですけれども。こう出ていったら、例えば、マッピングの話とかも出てきましたし、本業が忙しいから書けないけれども、主婦の人とかそういうコンセプトを持っている人に書いてもらったら書けるのではないかとか、みんなで利用したらいいのではないかと。利用するためにはおいしくしなければだめだけれどとか、もちろん、改善も欲しいのですけれども、その課題の抽出と改善方法のその提案とか出てきたと思うのです。

私が何かちょっと離れたところから聞いてすごく感じたことは、皆さんが真剣に考えてくださる、これが一番価値なのではないかなと思うのです。

私自身も創業者なので、1人でやっているところが煮詰まるのです。ここしか見えなくなってしまうのですけれども、それをみんながつついてくれるということ自体がその伴走支援、地域の人ができる伴走支援、しかも経営のプロでなくても、本当に市民で多様な面を持っている人たちが関わってくれる一番の価値なのではないかなと思ったのです。

ここから拾っていけば、やることはすごくたくさん出てくるではないですか。例えば、おいしくすることは当たり前ですよ。ちょっとジビエをやめてしまうというような話も考えたほうがいいし、バイクとか車の人が来るのだったら、もうそちらの方に振っていくようなことも考えられるだろうし、マップを作ることもそうですし、デザインを作ってくれるような、訴えかけるような仕組み、主婦の人たちを始め女性、女性とか男性に関らず、ある程度若いエネルギーを持っている人たちが関わっていけるような仕組み、運営に関れる

ような仕組みを作ってみたら若い人が流れ込むのではないのか、いろいろ出来る事が出てきます。

このテーマ出しみたいなのができる仕組みはいいなと思ったのですけれども、何か他にどうですか。菊川さんとか、聞いていてこういうものは伴走支援で自分たちが出せる価値だなと思ったことは何かありますか。

○菊川倫太郎委員 伴走支援というものはちょっと違ってきますけれども、やはり誰か旗振りの人が、多分いない。さっきも全員が無責任みたいなちょっと言い方をしましたけれども、やはり誰かリーダーというか、いないのは。

○石田靖典委員 誰か責任を負わないと、多分。

○菊川倫太郎委員 ちょっとうまくいかないですよ、やはり。誰かがやってくれるのだろうと多分なってしまう。

○佐藤真琴委員 何か本来、その、何かこの絵があったではないですか。このソーシャルとかコミュニティビジネス、ローカルビジネスもスモールビジネスも。基本、ビジネスとついていることは、誰か立ち上げ人がいるので、協議会ではないから。

こういう人たちがいると、おのおのが責任者で、たとえ自分のお金でなくても、自分の何か責任においてやっているので必死になると思うのですけれども。

○菊川倫太郎委員 誰も出資していないの、地域の人が1人1万円ずつ出しているとか。

○西田主任 10万円ずつ出しています。

○菊川倫太郎委員 10万円以上出しているの。

○西田主任 はい。

○石田靖典委員 でも、それが返ってくる訳ではないのですよね。

○西田主任 はい。

○石田靖典委員 10万円出して年利何%とかで返ってくるということはないですよ。

○西田主任 ないです。

○佐藤真琴委員 配当金とかなしで。

○西田主任 なしで、地元のそこを保存したいという人たちが、具体的な額はいろいろ多分あると思うのですけれども。

○菊川倫太郎委員 それで立ち行かなくなって、では、閉めますといっても10万円は返ってこない。

○西田主任 はい、返ってきません。

○菊川倫太郎委員 うちには分らないですけれども、やはり何かスポンサーがつけば違うのでしょうか。

○佐藤真琴委員 スポンサーにお尻をたたかれないようにしたいですね。事業部だったらどうしますか。

○石田靖典委員 平成27年度の収支を見ると収入の部の半分が交付金ですから。伴走者として、先ほどもありましたスポンサーですか、お金を出すから、そのかわりきちんとやってねと。

○佐藤真琴委員 伴走者はスポンサーにもなって、そのかわりリターンを。

○石田靖典委員 そうすれば、リターンを返すためには必死にならないといけないではないですか。自分たちも考えて。

○佐藤真琴委員 何にしる必死さが必要ということですね。

○石田靖典委員 やはり借金をしないとだめですよ。

○佐藤真琴委員 わかります。返すの大変ですよ。

○菊川倫太郎委員 本当、そこです。うちなんか、うちとか会社の話をしてもあれですけども、タイヤの販売会社とかは、直営のお店を出していたりするので。それは会社が直営しているものとオーナーがあって。直営のお店というのは、結局、サラリーマンではないですか。オーナーがやっているものとはそれは比べ物にならないです。直営は仕事として、そこの店長で行っているから、もち

ろんそれなりに頑張っているけれども、潰れても首をくくらなくてもいいわけです。やはりそこの必死さは違います。

○澤上花子委員 そうですね。

○菊川倫太郎委員 うん、これは本当に。

○佐藤真琴委員 必死になってもらうような、何か仕掛けも欲しいということですか。

○菊川倫太郎委員 そうでしょうね。

○石田靖典委員 あとは会社化してしまうかですね。株式会社でもいいし有限会社でもいいですし、会社化してしまっ。

○菊川倫太郎委員 今は何なのですか。

○佐藤真琴委員 協議会なのです。

○菊川倫太郎委員 協議会というだけで、そういうことなのですか。

○佐藤真琴委員 出資してみんなでわいわいなのです。営利企業にしていくということですよ。

○石田靖典委員 有限会社菅守小学校でもいいですし、そういう形にして本当に責任を誰かが負う、言ったら悪いですけども、誰かがトップになって、その菅守小学校を守るために収益を上げていこうと。

○佐藤真琴委員 直営とオーナーがやっているFCの必死さの違いは、まさにそういうことなのですね、きっと。

○菊川倫太郎委員 それは実際にそうでしょう。

○佐藤真琴委員 たとえすごく立地が悪くてもすごく頑張れば何かあるかもしれないではないですか。

○菊川倫太郎委員 そうですよ、本当、今、言ったみたいに直営店がすごく一等地に出す。でも、一方でオーナーはもともと自分の家があったところに店とか出したから、そんな便が良くなかったりするのでですけども、やはりそれなりに頑張ってしまうのです、やはり。

○佐藤真琴委員 何かその、へんぴでも何か頑張っていてクオリティーが高かったら、周りの人は応援したくなりますよね、それを。

皆さんが応援したくなる、皆さん、ちょっとこういう立場で考えてくれませんかと言われて。

○澤上花子委員 でも、現地の人としゃべってみないとわからないですけども、ここだけの想像だけで言うてはいけないので。本当に頑張っている人も、やはり一生懸命作っている人も、土日だけ経営するというところにも週末だけですよ、それもやはりずっとやっていたら大変だから、ということで絞ってやっているだろうし。

○佐藤真琴委員 それ、現地の人たちの声を何か拾って発信していたら、また違うのかな。

○澤上花子委員 いろいろな試行錯誤をしてやっていると思うから。

○鈴木誠協議会長 佐藤さん、そろそろ、まとめていただければ。

○佐藤真琴委員 では、その仕組みの話と。

○菊川倫太郎委員 地域の割と高齢の方も含めて非常に盛り上がっているのかなとイメージがあるけれども、何かテレビとかで見たことがありますけれども、おばさんと言ったらだめですけども、お母さん方がボランティアで料理を作っていて、うまくて安いものを出しているとか、何かそんな、よくあるではないですか。何かそんなイメージ、地元のマダムたちが、よっしゃ、私たちがやってやるぜ、みたいな感じでやっているみたいな、だと、何かそういうものも1つのモデルとしたらいいなと思うけれども、今はそんな感じでもないのですよね。

○佐藤真琴委員 その現実的な姿を何かもうちょっと出せるようなことも、皆さんで出来るかどうかはちょっと別として、そういう役割の人がいても、それも1つ伴走支援の形なのかもしれないですね。

○澤上花子委員 やはりその情報を流したいけれども、どう流したらいいかわからないところが多分あると思う。3年、これだ

けやっていて、それだけ浸透していないということは、その宣伝の仕方がやはりうまくできていなくて。

○菊川倫太郎委員 確かにフェイスブックがあります、載っていますよね。

○澤上花子委員 ありますよね。

○佐藤真琴委員 みんなでいいねをしましょうか、とりあえず。まずはそこからですね。

○澤上花子委員 そうだね、1人が。

○佐藤真琴委員 1人1人いいねすれば、今、5いいねはいきますよ。

○菊川倫太郎委員 それが励みになるのですよね。

○澤上花子委員 今、何人ぐらいいいねになっているの。

○佐藤真琴委員 何いいねぐらいですか。

○西田主任 208です。

○佐藤真琴委員 208いいねが多いのか少ないのかわからないです。

○西田主任 少ないです。

○佐藤真琴委員 少ないですか。

でも、今ここで5いいねぐらい増えたから。

○澤上花子委員 これを見た人がきっと友達がいるから。

○佐藤真琴委員 またそう、300人ぐらいはすぐいく。

○澤上花子委員 そう、そう。まず見るよね。

○佐藤真琴委員 市役所の職員に全員いいねしてもらうとか、それも支援だから。やる、たくさん。お金がかかる。

何かいろいろ実は出来ることがありますね。そんなこと、普段自分ではやらないですけども、みんなが。

○澤上花子委員 でも、やはりこういう雰囲気を見ると、小学校の給食の、給食を食べる感覚で、ここで何か食べるのがコンセプトになってね。

○佐藤真琴委員 そこに、でも、わくわくを感じるかどうかですよ、お客様。

だって、先ほどの村松さんの、いや、それ

でも僕は行かないなと言ったことが全てだなと思う。

その市場調査では行きますけれども、みんなに、少なくとも伴走支援をするような人たちとか、少しそれに関するような人たちぐらいは行きたくなるような、やはり場所にするお手伝いというものは、皆さん、それぞれでもあるのです、きっと。私もやってみて思いましたけれども。

○澤上花子委員 でも、菅守、きのうアップされているものね。

○佐藤真琴委員 そう、菅守全体では。

○澤上花子委員 フェイスブックでは。

○佐藤真琴委員 何かあるのですけれども。

○菊川倫太郎委員 何か意外と上がっていますよ。意外と。

○澤上花子委員 上がっている。フェイスブックは熱を入れているのかな。

○菊川倫太郎委員 先ほどのサイトはだめ、3月でだめになってしまいましたけれども、フェイスブックは意外と、何となく。

○澤上花子委員 載っていますよね。

○菊川倫太郎委員 うん。活性している感じはあります。

○佐藤真琴委員 フェイスブックの活性ってよく分からないですけども、ちょっとみんなだまにいいねをしましょうか。これ、御縁ですから、もう。

○澤上花子委員 でも、見ていない人は全然見ていないし、フェイスブックも。

○佐藤真琴委員 そうですね。

○澤上花子委員 やってないと、本当、ネットの世界を全然知らない人もいます。

○佐藤真琴委員 でも、そういう細かいことをやれる人がもっと増えないと難しいとかいろいろ課題が出ました。話せる場がやはりあった方がいいですね、皆さん。

○西田主任 つくでスマイルのホームページも地元の人が見ないからといって、地元情報誌を作って、つくでスマイルのホームページ

の記事を載せて回したら、みんながみんな、おばあちゃんたちが見てくれて、こんなことをやっているのだと。

○澤上花子委員 そうだね。

○佐藤真琴委員 やはりデジタルではなくて紙だったのだ。

○西田主任 デジタルではなくて紙ベース。

○佐藤真琴委員 チラシだよ、チラシ。それ、ニーズに合っていないのだよね、やっていることが。やれそうなことをやっている。やらなければいけないことではなくて。

そのマーケティングとかちょっとお手伝いできるといいですね。でもお金がかかってしまうので、マーケティングとかすると。

○菊川倫太郎委員 新城ラリーとかでもチラシをちょっとでも、配るだけでも随分違うかもわからないですね。

○佐藤真琴委員 そうですね。そのときに新城ラリーの会場から近いのかな。

○西田主任 近いです。サテライト会場が鬼久保で、そこから少し走ったところです。

○佐藤真琴委員 では、何かラリーのときに、例えば、ちょっとチラシを配ってみて。

○石田靖典委員 ルートが逆。総合公園と鬼久保公園と考えると、行かないルートです。通らないな。

○西田主任 わざわざ行かないといけないところにある。

○佐藤真琴委員 わざわざ行っても、それでも欲しいものがあつたら行くという男性諸君の声をポジティブに拾って。

○西田主任 おいしいもの。

○佐藤真琴委員 おいしいもの。そもそもそこみたいな話ですけども。

何かたまにメンバーが代わって、皆さんの声を拾うようなことをやったりすると、ちょっと皆さん、行きたい気になりませんか、ならなかったかな。

でも、ちょっと興味は持ちましたけど。

○菊川倫太郎委員 1回は行ってみようかな

と思う。

○佐藤真琴委員 ちょっと話のネタに。ここでも4人、お客さんがいる。

○菊川倫太郎委員 ここはこんな感じかという事は、確認したいなという感じはしましたけれども。

○佐藤真琴委員 そう、ファンを増やすのですね、そうやって。

わかりました。

では、あとはちょっと皆さんに、発表のときにちょっとお助けを願うかもしれませんけれども、何か自分の思うことを言っていたければと思います。

では、こちら、一旦締めます。

ありがとうございました。

○鈴木誠協議会長 そしたら、皆さん、そろそろこちらに戻っていただいて。

お願いします。

(松本班討論開始)

○加藤商工政策課長 昨日、河合さんが来る前に雑談ですけども、昨日は市民自治会議というものがあつたのです。市民自治の方たちのこういう。

○松本吉生委員 区長さんという方がいらっしゃる。

○加藤商工政策課長 とかもいらっしゃいますし、自分で手を挙げた方も、企業の方もいたりするのですけれども、企業の方が、梅津さんとか、松本さんとか皆さんそうですけれども、仕事が終わった後に地域のために頑張ろうと出てくるのだから、私たちも貢献しているので、こういうことを、私が今日ここに来ていることを、企業の方も会社の経営、横浜ゴムさんもそれを理解してもらって、会社としてでもあるし、個人としてでも新城市のために貢献しているのだからということで、CSR的な社会的貢献ということ、会社側も認めてくれるような仕組みにして欲しい

いですと言っていました。私たちがこうやって頑張っていることを会社の社長にも認めて欲しいと言っていました。

○松本吉生委員 僕たちでいうと、個人別の、当然、業績評価、いわゆる成績ですよね。

○加藤商工政策課長 はい。

○松本吉生委員 あとお店の成績表。銀行全体だと決算書となってきますけれども、お店の成績表、要はKPIの中に必ず財務と社会がありますから、その社会のところでは地域貢献をしろと、お金を出してあげれば何ポイント、一緒に行ったら何ポイントというものがある、それで評価してくれるような、一応、形になっているのです。

○加藤商工政策課長 そうですよ。そういうことを会社の方もなってくれるといいですよと、私は単なる傍聴者でぼやっと聞いていたら、そんな発言をする人がいたので。

○松本吉生委員 褒めてほしいんだ。褒めて育つタイプですよ、多分。

○加藤商工政策課長 何と立派な方なのだ、この人はと。

○松本吉生委員 褒められて育つタイプだから褒められたい。

○加藤商工政策課長 すごいと思いました。済みませんでした。それでは討論をお願いします。

○松本吉生委員 では、よろしくをお願いします。

どうしましょう。伴走支援事業、もう具体的にということなのですよ。

○加藤商工政策課長 そうです。具体的に、例えば、河合恵元さんならみんなで見ても、頑張れるやつだったら、いいよ、お金を出すよ、そのかわり死ぬ気で頑張れよと。

○河合恵元委員 ごめん、これ、やっているの知らない。

○加藤商工政策課長 え。

○河合恵元委員 これをやっていること自体知らない。

○加藤商工政策課長　そうですよね。そこからです。

○河合恵元委員　だから、皆さん、知っているかどうか知らないけれども。

○加藤商工政策課長　ほとんど知らない。

○大石奈保委員　私はここから情報が。

○加藤商工政策課長　それは分からないですけども。

○河合恵元委員　お金を出しているから、知っているわね。

○松本吉生委員　お金とか、いや、きちんと行って、言ってきましたよ。それももともと知っていたわけではなくて、加藤さんから紹介いただいて、こういうものをやっているの。

○加藤商工政策課長　河合恵元さんが前回の協議会のときにお話ししてくれた、情報を出すのが下手なのだよと言って、地域が頑張れるような風土をつくっていかなければだめだよという発言があったのです。まさにそれで。

○河合恵元委員　一応、国のお金をもらっているのでしょう。

○加藤商工政策課長　もらっています。

○河合恵元委員　市は全然絡んでいないの。

○加藤商工政策課長　絡んでいないです。

○河合恵元委員　絡んでいない。

○加藤商工政策課長　はい。地域で手を挙げると、地域にくれるという国の補助金があるので。

○河合恵元委員　地域にくれるの。

○加藤商工政策課長　はい。

○河合恵元委員　市は通さない。

○加藤商工政策課長　市は通さない。

○河合恵元委員　何にも。

○加藤商工政策課長　直交とって、直接、国が交付するという制度なのです。

○河合恵元委員　市が絡んでいないから、その市が絡めばいいけど、という話だったの。

○加藤商工政策課長　農業課は絡んでいるんですけども。

ただ、市は皆さんの税金、予算とか国からもらった交付金を、市を通ったものはこういう事業でこういう計画を立てて、こういうふうに使いましたとって、議員さんとかいろいろな人が見たりするのですけれども、直接、国に手を挙げて団体にお金が入ったので、市の会計を一切通らず回っているの、議員さんからも市民からも誰からも何も言われず活動ができていくという。

○松本吉生委員　逆に言うと、でも、その認知度は低いかもしれないけれども、ある程度うまくいっているということですよ。その人数が増えていくとあれではないですか。

○加藤商工政策課長　人数が増えたりはしているのですけれども、田舎の人たちに満足でいっぱい来てくれているよねと、新聞やテレビも取り上げてくれたよねと。

○河合恵元委員　お金だけ出せばいい。

○加藤商工政策課長　そう。お金は出すけど口は出さないというものが。自分たちだけで何とかしようと、河合製作所さんから1,000万円、浜ゴムさんから2,000万円、UFJさんから。

○河合恵元委員　1億円出してと。

○加藤商工政策課長　という形でやっていったらどうだということ。

○河合恵元委員　でも、この1つの、この中にこれが入っているとしたら、どうやって登録するのか知らないけれども、これは情報発信できるよ。

○加藤商工政策課長　そうですよ。情報発信はできます。これから皆さんが情報発信をしていかなければだめだと言ってきているので、うちの方も情報を出すところと。

○河合恵元委員　だから、応援するというところでしょ。

○加藤商工政策課長　そう。もう応援する形に変えていくようにしていきます。

○河合恵元委員　応援してほしい人、手を挙げてということでしょう。

○加藤商工政策課長　そうです。手を挙げてきたものを事業者の方たちとかいろいろな方たちが何をしてくれますか。

○河合恵元委員　だから、この人は素人ではダメなの。

○加藤商工政策課長　そうなのです。なので、プロなのです。

○河合恵元委員　セミプロなのだね。ここにプロがいて、セミプロがいて、プロはただでは動かないものだから、ここはお金を出さなければいけない。

○加藤商工政策課長　そうです。なので、この人たちに、当然、痛みも伴わないと頑張れないですよ。

○河合恵元委員　お金をもらう以上は成功させなければいけないとか。

○加藤商工政策課長　そうです。

○河合恵元委員　いろいろな手を使うけれども、ボランティアだったら、そんなのやっつけられないもんね。

○加藤商工政策課長　そうです。

典型的なのは、先ほどの奥三河創業塾と書いてあるものの後ろにあるセミナーなのですけども。

○河合恵元委員　ここがもし来たら、この人たちは、勉強するじゃない。

○加藤商工政策課長　床屋になったり、そういう人。

○河合恵元委員　こちらに、当然、市も入っているよね、これ。

○加藤商工政策課長　うん。

○河合恵元委員　言ってみれば、これがイコールになる。

○加藤商工政策課長　そうです。

○河合恵元委員　では、いいですね。

○加藤商工政策課長　そう、そう。

こちらはこれでいいのではないかと、普通の床屋とか何かやるのは。

○河合恵元委員　これを全世帯に配っているの。

○加藤商工政策課長　商工会は全戸に配ったのかな。回覧かな。

○河合恵元委員　回覧なんか使うわけがない。

○加藤商工政策課長　使っていない。では、全戸配布したのかな。どれだけ配ったの。

○白井商工政策副課長　これですよ。

○加藤商工政策課長　うん。

○白井商工政策副課長　これは、作手は回覧制度がないので全戸に配ったのですけれども。

○加藤商工政策課長　作手は全戸配ったそうです。

○白井商工政策副課長　その回覧という制度がないので。ただ、新城と鳳来は組回覧です。

○梅津浩史委員　回覧板。

○白井商工政策副課長　そうです。回覧板で回しています。

○梅津浩史委員　見ていないな。

○松本吉生委員　こういうものはホームページにも載ったりするのですか。

○加藤商工政策課長　ホームページに載っています。

セミナーを受けた後、まだそれでもどうしたらいいか分からないとか、商売を始めてもどうしていいか分からないというときに、河合さんのところとかどこかへ行って相談を、とにかく相談に乗ってやるわ、解決できないかもしれないけれど。そのかわり、その相談内容によって私の知っている人を紹介してあげるよと、それだけでも。

○松本吉生委員　でも、それが一番うれしいのですよね、多分。

○加藤商工政策課長　そうなのですよ、きっと。きっとそれがうれしいのではないですか。

○河合恵元委員　そういうものを商工会も紹介の1つの窓口にして、誰か紹介してほしいとか、商工会の会員にお願いして、そうすればもっと広がる。

○加藤商工政策課長　あと、今までやったことがないような商売というか、この地域にならぬような商売なんていうものは、もうソーシ

ャルな部分、ニッチな部分とか、商売になるかならないのか分らない、みたいなことがやりたいという人がたまにいるのです。

○松本吉生委員 いいじゃん。

○加藤商工政策課長 そういう人は、ここでは何ともならないのです。

○河合恵元委員 何で。

○加藤商工政策課長 なかなかこういうところでは紹介し切れないうところがある。

○河合恵元委員 例えば。

○加藤商工政策課長 例えばですけれども、お茶の木の実がありますよね、お茶の実みたいな、お茶の実を絞った油がすごく体によく、その油を作って売りたいのですよと、やればいいじゃん、ですよ。

そのような感じでは、お金を借りるにしても。

○松本吉生委員 いや、それは無理です。

○加藤商工政策課長 あり得ないので。

○河合恵元委員 だから、それを事業計画するわけでしょう。

○加藤商工政策課長 そう。なかなかそのようなものを相手にしてくれません。

今の若者とか、先ほど言ったまちづくりに補助金とかいうものを目指していて、だけど、地域のために何かしていきたいという人は、そういうものが多いのです。

○梅津浩史委員 ちなみに、その油、それは、誰々先生がいいとかいう保証はあるの。

○加藤商工政策課長 それはあるみたいです。よく分からないですけれども。

○梅津浩史委員 そうすると、先ほど河合さんが言ったように、きちんとそういう保証があつて、いろいろ特許権があつて、全部やるのでどうですかというプロセス。

○加藤商工政策課長 ただ、それが生業にならないのです。

○梅津浩史委員 生業にならないの。

○加藤商工政策課長 ただやっていくだけだと。販路もないですし。

○松本吉生委員 それはそうですね。

○梅津浩史委員 前回、そんなことがここに書いてあったような気がしたけれども。

○河合恵元委員 だから、それを教えているのでしょうか。ここに行く前の話だと思ふのだけれども。そこの伴走支援の。

○松本吉生委員 走る前にちょっと、スタート前に教えてあげないと。

○加藤商工政策課長 そうです、ここから要るのです、多分。

○松本吉生委員 そこへ行くまでにもう一個要るのかもしれない。

○加藤商工政策課長 そういうのって誰がやるのですかね。

○河合恵元委員 だから、そんなマニュアルがあるのではないの。これとこれと、事業を進めるに当たって、これとこれをクリアしないとできないよ、みたいな。

○加藤商工政策課長 では、河合さん、もう極論を言うと、そこを地域の事業者さんたちで何か応援、できないことがない。

○河合恵元委員 余裕はないです。

○加藤商工政策課長 そこなのです。

○河合恵元委員 だから、決まった1から10までをクリアするならいいよ。まずクリアして。

○加藤商工政策課長 そこも1つ大事で、今、働いている人は、自分のことで精いっぱい。子供がいて、横浜ゴムさんへ働きに行っているような人は、自分のことと家のことをとか、地域のつき合いとかで、そんなことをやっていられるかという話。

そうしたら、よそからそういう人を呼んでくるだけ。

○河合恵元委員 ここでも、もしかしたらいいかもしれないけれども、ここでも。

○加藤商工政策課長 それで、役所では何もできないのです。役所の中で知識を持っている人はいないのです。

○梅津浩史委員 いないと思う。

○河合恵元委員 そんなことはないと思うよ。
○加藤商工政策課長 いないですよ、何をやっていいかなんて。

○河合恵元委員 では、その事業計画も出していない人がこんなことをしたいと言って相談に来てもいいよね。

○加藤商工政策課長 うん。

○河合恵元委員 せめてここの計画がないと、次、何もしてあげられないよと、ここまでやりなさいということでもいいじゃん。

○加藤商工政策課長 その計画がつかれない。

○河合恵元委員 だから、フォーマットがあって埋めてきて下さいと。

○加藤商工政策課長 それ、一緒に話を聞いてあげて、計画を作れる人がですよ。

○松本吉生委員 金融機関が得意。

○加藤商工政策課長 そう、そう。それで、金融機関も豊信さんとか、松本さんの前では言いにくいですがけれども、豊信さん、蒲信さんは、いろいろなセミナーを開いていて、相談に乗りますよと。

○河合恵元委員 そうだね。これはおもしろそうだなと、そこには事業計画がある程度ないと、そんなものね。

○加藤商工政策課長 そうです。

○松本吉生委員 事業計画ぐらい作れる人でないと、経営が大丈夫かなというのがあります。あなたは本当に本気ですかと、正直に言うところがあります。

○加藤商工政策課長 まあね。

○松本吉生委員 金貸しの立場から言うのですよ。それは一緒に伴走して育てたいという気持はありますけれども、金貸しの立場になってしまうと、本当に大丈夫みたいな。必ず返してもらうのですよ、あげるわけではないのですよ、みたいなところがあるので、ちょっと。

○加藤商工政策課長 なので、覚悟がないとだめでしょう。

○松本吉生委員 それなりに書き上げるとか、

そういう覚悟は見せてほしいです。

○梅津浩史委員 何か昔の、何とかの門みたいな。

○加藤商工政策課長 何とかの門とは。

○梅津浩史委員 出資してくださいと。

○松本吉生委員 ラーメン屋のデビューみたいな。

○梅津浩史委員 そう、そう。

○加藤商工政策課長 これも平成25年くらいだったので、地方創生みたいな走りだったのです。それで、地域が計画書を作って出してきたら、よかったら審査して、よかったら採択して、お金、交付金を出しますよという。

○梅津浩史委員 交付金だから返す必要はないのだ。

○加藤商工政策課長 返す必要がないのです。

○松本吉生委員 その後のフォローもないのですか。交付金の。

○加藤商工政策課長 会計検査院の人が検査に来ます。

○松本吉生委員 それだけで。

○梅津浩史委員 きちんとその事業に合っているかどうか、どういう使い方をしているかだけ。

○松本吉生委員 すごいですね。

○加藤商工政策課長 全然いけますよ。

○梅津浩史委員 そうなると、やはりワンクッション、ほかにアドバイザーではないけれども。新城市内でなくてもいいのですよね。どこか探してきて何か作ったらどうですか。うち、よくあるのです。講師メンバーとして作るのだけれども、そういう、今言われた人たちをどうこう、そこへ向けるかという、要は案内してやるしかないのではないですか。

今、皆さんが言っているように、ここまで来ると、今度は本当に支援をしなければいけないので、その前に訳の分からないことを言ってきた場合に、一回ここへ行ってこいと。

○河合恵元委員 それは商工会に使えるのではないの、それは。創業支援の。

○加藤商工政策課長 していますよ。

○河合恵元委員 何かわからない人は商工会へ行って相談してよと。

○梅津浩史委員 そこから始めて話を聞いて。真っ当かどうか。

○加藤商工政策課長 そこです。

○河合恵元委員 例えば、私はその相談を受けますと言っても、何もできない。

○加藤商工政策課長 そう、そう。なので、やはりこの伴走者の前にワンクッションがあるのです。

○河合恵元委員 商工会を使えば。

○加藤商工政策課長 普通に商売をやる人、よくある、先ほど西田が言ったように、パン屋とか床屋とか水道屋とかいうようなものしか扱わないかな。

○河合恵元委員 そんなことはないよ。

○加藤商工政策課長 本当ですか。

○河合恵元委員 会員を増やさないといかんから。

○加藤商工政策課長 本当ですか。

○河合恵元委員 増減は余りないのだけれども、そういうこともやらなければいけないのでないの、商工会は。

○加藤商工政策課長 そうですか。

○松本吉生委員 では、お茶の実も乗っただけ。

○加藤商工政策課長 お茶の実のことも行って話をすればいいのですけれども。その後です。

○松本吉生委員 誰か先生を。

○加藤商工政策課長 それは役所に来ても何とかなります。

○松本吉生委員 だって、何年もかかるでしょう。

○加藤商工政策課長 そうです。少なくとも3年はかかります。

○河合恵元委員 例えば、それを聞いたら、うちの前の茶畑、誰も手入れをしていないものがあるからそれを借りたらとか、そんなこ

とはアドバイスできるけれども、それ以上はできない。

○加藤商工政策課長 河合さんのところだと何か支援してやるよとか、うちとして何かできるよといったら何ができるのですか。

○河合恵元委員 そのお茶の木。

○加藤商工政策課長 いや、お茶の木ではなくて何か商売をやりたいという人。

○河合恵元委員 友人を紹介するとか。

○加藤商工政策課長 ですので、今まで自分が商売をやってきた経験上の知り合いみたいな人は紹介できるということですよ。

○河合恵元委員 それできるけれども。

○松本吉生委員 でも、先ほどのお茶の実の話でも目の前に買ってほしいところがあると言えば、だって、そこに行ったら、今度は仕入れがただですよ、その人。

○加藤商工政策課長 うん、ただでもいいからきれいにしてくれと、だけでもね。

○松本吉生委員 そうですよ。ただきれいにしてほしいと、多分、無所持の人はそう思っているから、仕入れがただになるではないですか。それ、すごくよい話ですよ。

○加藤商工政策課長 お茶畑だけでも60ヘクタールだか70ヘクタールぐらい、今あるのかな。

○河合恵元委員 あるの。

○加藤商工政策課長 はい。

○河合恵元委員 遊んでいるの。

○加藤商工政策課長 いや、今はまだ何とかなっているのですけれども、あと10年したら半分は太陽光になるか荒れ果てるかどうかです。

○松本吉生委員 太陽光はもう。

○加藤商工政策課長 もう遅いですよ。

○松本吉生委員 太陽光はきついですよ。

○加藤商工政策課長 きついでしょ。

○松本吉生委員 どうします、では。その菅守小学校の具体的な支援策。

○河合恵元委員 だから、このお金が、交付

金がいつまであるの。

○加藤商工政策課長 交付金は終わりました。平成28年は自力でやってください。お客さんがたくさん来てよかったねと、新聞にも取り上げられてよかったよねと、それで終わりで、平成28年に向かっているということが問題なのです。

○河合恵元委員 何人の従業員がいるの。

○加藤商工政策課長 3人です。

○松本吉生委員 これ、当然、支援金がなかったら赤字ということですか。

○加藤商工政策課長 そうです。

○河合恵元委員 今回の1回だけだね、これ。

○加藤商工政策課長 そうなのです。

○松本吉生委員 それはそうですよね。

○加藤商工政策課長 私は、今年がダメだったら早くやめた方がいいよと言っています。

○河合恵元委員 今は一生懸命やっているけれども、それ以上のことはできないから。

○加藤商工政策課長 だけど、地域としては、物すごく人が集まったり来たりしないとなくなってしまうので、何とか学校を残しておきたい。残しておけばいいじゃん、という話です。

だけど、協力してくれる人だと、今、地域の人だけでも200人ぐらいいろいろ関わってくれている人がいます。

○河合恵元委員 そうなの。

○加藤商工政策課長 はい。延べですよ。延べ人数。若干お金を出したり、昼御飯を食べさせたりしているみたいですよ。

○河合恵元委員 だから、自分たちで全部出せばいいじゃん。

○加藤商工政策課長 お金は。

○河合恵元委員 一応出資金を出して。そうしたら一生懸命やるのではないの。

○加藤商工政策課長 なので先ほど、最初に言ったように、やはり痛みを伴った方がいいと。

○梅津浩史委員 これ、土日だけでしょ、

やっているのは。

○加藤商工政策課長 そうです。土日祝。

○白井商工政策副課長 土日祝です。

○河合恵元委員 では、土日だけでもいいかなと思う。土日祝だけで。

○加藤商工政策課長 あと、12月、1月、2月、3月もやめておけば。

○松本吉生委員 200日ですね。

○加藤商工政策課長 作手の冬なので来ないです。

○大石奈保委員 雪がね。

○加藤商工政策課長 そうです。山びこの丘でも冬場なんか来ないから、季節営業にするべきなのです。

○河合恵元委員 やはりあれだな、冬は寒いところを知らない人を呼ぶ。

○加藤商工政策課長 北海道とかでやっていますよね。

○河合恵元委員 北海度の人に来てもらってもしょうがない。

○加藤商工政策課長 いや、北海道の方だと地吹雪を感じてもらおう。

○松本吉生委員 秋田とかも。

○加藤商工政策課長 やっていますよね。

○河合恵元委員 だから沖縄の人、例えば。

○加藤商工政策課長 あらぐすくの人ですか。

○河合恵元委員 あらぐすくを呼ぶとか、人数は少ないけれども。

○松本吉生委員 あれ、何かおっしゃっていましたけれども、前、沖縄の材木の交流する、その人たち。

○河合恵元委員 そう。それらと冬の間に関交流するとか、こちらの小学校は向こうに行かせてもらおうとか。

○加藤商工政策課長 その方がおもしろい。

○大石奈保委員 ちょっと何か、この菅守の内容が山びこの丘とちょっとかぶっているところとかもあって、事業内容とかおそば屋さんやレストランだったり、体験事業をやられていたりということで、若干かぶっていると

ころはあるのかなとは思ったのですけれども、やはり先ほども言われたみたいに、せいぜい9月までとか、利用人数的には多くて、紅葉の時期まではレストランは粘れるかなと、紅葉が終わってしまうと、もうよしかなという感じです。

だから、先ほど言われたみたいに、期間営業とかにされるということも考えていた方がいいのかもしれないのですけれども、うちもそうですけれども、いかに閑散期と言われる時期に魅力の創出をしていって、お客さんを呼び込むかということがずっと課題なのです。ですので、どういうふうなことを今後されていく、どういう形態で行かれるのかにもよって、トップシーズンとそうでないシーズンとの差がぐんと広がってしまうことになるのかなとは思っているのですけれども。

○加藤商工政策課長 今、大石さんがお話ししてくれた中で、閑散期のときにお客さんが来ないのが課題なのですよと、多分、思っているだけだよ、みんな。それをずっとそうやってきつと思っているでしょう。ずっと課題でしょう。解決策は、自分たちでは考えられないよね、今。

○大石奈保委員 この方たちが。

○加藤商工政策課長 いや、自分たち。

○大石奈保委員 私。

○加藤商工政策課長 うん。

○白井商工政策副課長 思っているだけだから。

○加藤商工政策課長 ずっと何年もきつとそうだと思うのです。

○大石奈保委員 はい。

○加藤商工政策課長 それを誰かに相談するとか。

○松本吉生委員 伴走支援者。

○大石奈保委員 うち是指定管理なので、行政が入っていますので、いろいろと計画していただいて、いろいろなところから有識者の方とかが来てくださってお話ししてくれたり

ということを。

○加藤商工政策課長 ずっとやっているよね。

○大石奈保委員 ありましたけれども。担当課の方がいろいろなところ、同じような、類似施設とか、あと、コンサルタントの方とか来てくださって、いろいろとお話を聞くのですけれども、やはり自分たちの中でこういうものやってみようとかああいうものやってみようと、もしかするとうまくいかないかもしれないけれどもやってみようというような流れが出来ていった方が、結果的に、最終的には実を結ぶというか。

○河合恵元委員 それはやらせてもらえるの。

○大石奈保委員 それはやらせてもらえます。そうなのですけれども、そういうときに必要なものは、こういう人たちも必要なのですけれども、逆に言うと、こちらの人たちとの交流のほうが大事。

○松本吉生委員 同じようなとか、悩みがあったり。なるほど、それはそうだ。

○加藤商工政策課長 これもここよ。

○大石奈保委員 ここの人たちの前に、こちらが絶対大事なのです。

○加藤商工政策課長 そう、そう。だからこういう人たちも。

○大石奈保委員 集まって協力し合えるとか。

○加藤商工政策課長 こういう人たちのちょっと頑張った人がここよ。

○大石奈保委員 ここで結果が出ている人がここに来ればいいのかと私は思ったのですけれども。

そうすると、ここの中で苦勞しているから、それが直接相談の支援内容になっていたり、例えば、こういうふう困ったときに、UFJさんにお話ししていったら助けてくれたよとか、河合製作所さんに話をしていたら。

○加藤商工政策課長 すぐお金を出してくれる。

○松本吉生委員 無料で1,000万円用意してくれるとか。

○大石奈保委員 とかいうことを、支援もそうなのですけれども、ちょっとしたアドバイスだったり、横のつながりができる場を設けることの方が私は大事かなと。

○河合恵元委員 ここがうまく、ここをこううまくコントロールしてみんなが集まる機会をつくるとかだね。

○大石奈保委員 そうですね。今、こうやってこの会に出させてもらっているので、新城の中でいろいろなことをやっている方がいるという場に来させていただいて、河合さんはこういう考え方なのとか、澤上さんがそういうこともやっているんだ、みたいなことが分かるのですけれども、山びこの丘のあの山の奥で自分たちだけでやっている、そういう情報が入ってこない、困ったなと思っていることがそこで停滞しているだけ。先ほど言われたみたいに。ずっと閑散期はどうしようと言っているだけだねというのか、その停滞している状態だと思うのですけれども、でも、多分、ここが集まって何だかんだという中で、うちもそうという話になっていったらもっと上に行けるとか、もしかするとそこそこがうまくつながれば解決できるかというような話になっていったりしないかなと思うのです。

だけど、ここからいろいろ教えてもらうことは、余り、それぞれの現場を知らなかったり。

○加藤商工政策課長 実経験がないから。何も。

○大石奈保委員 そう。あと、やはり都会のことを言われる方が多くて。

○加藤商工政策課長 それはセミナーの先生とかそうですね。

○大石奈保委員 そう。この山奥で、この山びこの丘では無理です、それ。みたいなことを言われる方が多いので、私だったらここのつながりを求めたいなという気はします。

○加藤商工政策課長 商工会は異業種の交流会みたいなものはやっていたか、多分。情報交換会。やっていないですか。

○河合恵元委員 総会があったり理事会があったり。

○加藤商工政策課長 ありましたよね。あと工業部会があったり、そういう。

○河合恵元委員 商工部会とか交流会とか、そういうものはある。

○加藤商工政策課長 ありますよね。

河合さんたちと〇〇の森さんたちとかが話し合いをするというと、部会の上の人たちだけの、理事会とか総会とか。

○河合恵元委員 総会は、そんなもめることもないね、大体。

○加藤商工政策課長 大体は手をたたいて終わりですよ。事務局が何かしゃべることがあったりして。

○河合恵元委員 そう、そうでないこともあるけれども。

○加藤商工政策課長 商工会の中で商工会議の交流会みたいなものはないのですね。

○河合恵元委員 そこでも。

○加藤商工政策課長 会員同士の話という話になってしまうの。

○河合恵元委員 それは個々になるよね、きっと。

○大石奈保委員 先ほどのお茶の実の話も、例えばなのですけれども、自分で起業して、機械を導入したり販路を確保したり、最初から考えていったら、いや、無理だろうと話した。

○加藤商工政策課長 うん、無理、無理。

○河合恵元委員 幾らあるの、お金とかね。

○大石奈保委員 そう。やはりなってしまっているではないですか。

○加藤商工政策課長 それで、例えば石田君たちが役所と農協さんと一緒になって農業をやりたい人という、大体これぐらい稼げるよと、来いよと呼ぶではないですか。そんな

こと、お金がない人に任せたりしないので、金蔵を持っている、親の持っている家は持ち家とかということも聞いて、農協に通帳を作ってもらって、ではおいでよみたいな、当然、そういうことをする。

○松本吉生委員 それはそうですね。

○河合恵元委員 幾らまで。

○加藤商工政策課長 とりあえず300万円ぐらいはないと、というところで。

それで、暮らしていけないので、最初の2年ぐらいは。少なくとも300万円はないとだめだよと。

○河合恵元委員 でも農業、それは大変だろうけれども、もうかると言っ。

○松本吉生委員 言ってますよね。

○加藤商工政策課長 あの人はもうかると言っていますよね。

○松本吉生委員 だって、可処分所得で1,000万円だと言ってる。

○梅津浩史委員 それで全部1人でしょう。

○松本吉生委員 すごいです。

○梅津浩史委員 相当大きな企業ですよ。

○大石奈保委員 大きいですよ、なかなか。

○河合恵元委員 冬場、アルバイトしていると。

○加藤商工政策課長 そうですよ。

○河合恵元委員 いいなと思って。

○加藤商工政策課長 ほかの人は12月から2月まで働いていない人がいます。

○松本吉生委員 そうですね。だからみんな、人によったら海外へ行く。

○加藤商工政策課長 旅行に行っていますよ。釣りが大好きな人はほぼ釣りをしています。

○松本吉生委員 あとはこっちで、仕事もおもしろいし、これもあるしみたいな。

○加藤商工政策課長 そうそう、ちょっととか言って連れてきてください。

○河合恵元委員 そんな。文句を言うなよという感じ。

でも、本当は休みがないかもしれないけれ

ども、ここからここまで。

○松本吉生委員 そうですよ。

○河合恵元委員 何かつくっている何とか村とか、リーダーのある。

○加藤商工政策課長 信州にあるやつですよ。

○河合恵元委員 半年休みなしで働いて、半年遊んで。

○加藤商工政策課長 レタスをつくっている。

○梅津浩史委員 船員さんはみんなそうですよ。

○松本吉生委員 そうですね。

○梅津浩史委員 船員さんは半年行って半年。

○松本吉生委員 漁船に乗ってこいみたいな、根性をたたき直すためにみたいな。

○河合恵元委員 どちらかというところという方が俺は向いている気がする。

○加藤商工政策課長 短期でがっとう稼いで。

○河合恵元委員 そう、そう。短期でなくてもいいから。

○梅津浩史委員 昔、期間社員なんか多かったです。バブル期は半年働いて、昔、結構もらえたではないですか、失業保険を。それが終わるまでは遊ぶと。また働くという。

それが今のつけになっているところも多いのだけれども。

○加藤商工政策課長 あと、似たような境遇の人たちというか、そういうところのつながりのところが一番大きいのでは。

○松本吉生委員 でも、今度企業展をやるではないですか、この前おっしゃっていた。

○加藤商工政策課長 はい。

○松本吉生委員 あそこで何か創業セミナーみたいなこともやったら、人は来たりしないですか。何かやりたいけれども、やはりどのようにしてやったのだろうみたいな。

○加藤商工政策課長 やりたいのだけれどもという人がいるのですか。もうそもそも論になってしまうのですけれども。

金融機関、信金さん、メガさんはいいので

すけれども、よそで稼いでいるので。信金さんとかのために、やはり何か商売を始める人もそこそこないと、信金さんもお客さんの取り合いです。

○河合恵元委員 U F Jさんが個人に動いているもの。

○加藤商工政策課長 なので信金が苦しくなってしまうのですね。

○松本吉生委員 集金はしていませんので大丈夫です。

○加藤商工政策課長 U F Jさんと、メガさんと地銀さんが動くと、信金さんもびくびくしてしまっています。

そんなことはないですか。

○松本吉生委員 そんなことはないです。お互い、棲み分けをしていますので。

○河合恵元委員 でも、作手のあれは土日だけ。でも、こんなものだね。頑張るという感じ。

○加藤商工政策課長 そう、こんなものなのです。

○河合恵元委員 借り賃はあるの。

○加藤商工政策課長 借り賃はないです。何かリースしているものがある。

○松本吉生委員 でも、営業日数割で5, 000円は高いですね。あれ、ずっと借りているからか。

○加藤商工政策課長 そうです。

○松本吉生委員 営業日だけで割るとこうなってしまう。

○加藤商工政策課長 営業日だけでは済まないの。

○河合恵元委員 ずっとただで貸してくれるの。契約しているの。

○加藤商工政策課長 どこですか。

○河合恵元委員 市が。

○加藤商工政策課長 建物。半分が市の倉庫になっているの。

○河合恵元委員 でも、市が貸してちょっと銭を取ればいい。

○事務局 市は、今、銭を取ってないです。

○河合恵元委員 取れば、もっともうけてもらってとかさ。

○加藤商工政策課長 そう、そう。最終的には貸し賃を取って、そのお金を市は地域に回すとかしていきたいのです。

○松本吉生委員 でも厳しいですよ。

○加藤商工政策課長 厳しいです。

○梅津浩史委員 ざっと見て350万円だものね。

○加藤商工政策課長 商工会には入っているのです。

○河合恵元委員 入っているの。

○加藤商工政策課長 入っている。

去年までの商工会の副会長だった方がメンバーに入っています。

○河合恵元委員 ノウハウを持っているのでは。

○加藤商工政策課長 商工会に相談に行っているかどうかよく分からないのです。入っているというだけで。

○河合恵元委員 1回もここへ行ったことがないから分からない。

○梅津浩史委員 場所も分からないです、ここ。どこだか。

○河合恵元委員 菅守、結構奥です。

○松本吉生委員 めちゃくちゃ奥です。

○加藤商工政策課長 めちゃくちゃ奥です。

○松本吉生委員 一番奥です。

○事務局 このまま行って大丈夫という。

○梅津浩史委員 一番奥なのはいいのだけれども、道沿いなのかどうか。

○松本吉生委員 道沿いにつくってある。

○加藤商工政策課長 はい。

○河合恵元委員 川のところだよ。

○白井商工政策副課長 はい。

○加藤商工政策課長 そうです。

○松本吉生委員 そうなのですか。

○加藤商工政策課長 はい。何回も行ってきますけれども、飯は食ったことがないのです。

○大石奈保委員 これは、ターゲットにしているのは観光ですか。

○加藤商工政策課長 いいところを突きました。やれば来る、お客さんが来ると、作手にはいっぱい来ているから、という発想です。

○河合恵元委員 では、あそこの川はよい川だね、きれいだし。

○松本吉生委員 釣り堀。

○河合恵元委員 築場などをやればすぐ、夏は。

○加藤商工政策課長 そうなのですよ。

○松本吉生委員 つかみ取りとか。

○河合恵元委員 夏休みシーズン。

○加藤商工政策課長 遊べますよと言って。

○河合恵元委員 そこでがっとう稼いであとはやめるとか。

○加藤商工政策課長 その時期だけで、以外は何もやっていないですよ。

○梅津浩史委員 鳴沢あたりもそうですよね。

○大石奈保委員 そうですよ。

○河合恵元委員 鳴沢はすごくいいロケーションだね。

○加藤商工政策課長 いいですよ。

○梅津浩史委員 そう、そう。僕たちは組合で、昔、借り切って使ったことがある。

○松本吉生委員 そうですか。鳴沢の滝。

○河合恵元委員 鳴沢の滝、本当にいい。

○梅津浩史委員 今でもまだやっていると思います。

○松本吉生委員 今やっているのかな。

○梅津浩史委員 もうちょっとでやめるのではないかな。

○松本吉生委員 ここは何かシャワー施設などなかったりしないですか、当然。

○加藤商工政策課長 ないです。

○松本吉生委員 ないですよ。

○加藤商工政策課長 はい。

○梅津浩史委員 だから、もし発展させるとすると、オートキャンプ場なども。

○河合恵元委員 それはキャンプ場も、無理

だろうね。

○松本吉生委員 そのグラウンドで何か使わせるみたいな、やはり無理だと思うのです。

○加藤商工政策課長 そんなことはないです。

○松本吉生委員 だってシャワーがない、使うかな。

○加藤商工政策課長 ああ、そこですね。

○松本吉生委員 ただ、今、企業でいうと、昔、運動会をやっていたではないですか。

○事務局 はい。

○松本吉生委員 今、また復活しているではないですか。コミュニケーションを増やせとかで、運動会屋とかいうものがすごくもうかっているではないですか、今。

○加藤商工政策課長 前、テレビでやってました。

○松本吉生委員 そんなものと。

○加藤商工政策課長 もうかる方法はマニアックな人たちの団体のオフ会みたいなものを開けば。

○松本吉生委員 オタですか。

○加藤商工政策課長 オタで。サバゲー。

○松本吉生委員 サバゲーね。

○加藤商工政策課長 サバゲーは現場を見に行っただけ、地域の人が、迷彩服を着たような人とか来て、鉄砲を撃つなんて嫌だからやめてくれてと断られました。

○松本吉生委員 サバゲー、それはたくさんいそうだな。

○加藤商工政策課長 3,000円の金で100人集まって、30万円ですよ。30万円置いていくので遊ばせてくれ。50対50の。

○梅津浩史委員 今、探している。うちの人も探している。

○松本吉生委員 場所がないから。

○加藤商工政策課長 それも室内も2階の室内を使って、裏山をつくってサバゲーをやれと。

○河合恵元委員 あそこは民家あったかな。

○加藤商工政策課長 ないです、近くに。
○松本吉生委員 裏は山ですよ。
○加藤商工政策課長 山です。周りに何もないので。金を出すよという者もいれば、あと、コスプレ。
○松本吉生委員 コスプレ、そこで。
○加藤商工政策課長 教室で。黒板で。
○大石奈保委員 ありますよ、うちも。コスプレして泊まりたいと。
○松本吉生委員 コスプレして泊まる。
○河合恵元委員 それをやろう。
○加藤商工政策課長 鳴沢の滝のところでコスプレ、レイヤーさんを1人置いて。
○大石奈保委員 撮影会ですよ。
○加藤商工政策課長 何千円か払って撮影会とかやる。
○松本吉生委員 へえ。
○加藤商工政策課長 すごく人が集まってお金になるのです。
○河合恵元委員 それをやろう、それでいいじゃん。
○松本吉生委員 手っ取り早く。
○加藤商工政策課長 1回二、三十万円なんて簡単に、場所を貸すだけです。
○河合恵元委員 嫌なわけがないということです。
○加藤商工政策課長 嫌だって。
○河合恵元委員 嫌なの。
○大石奈保委員 地域の方が。
○松本吉生委員 とは言っても、本当はやるのに一番いいですよ。周りに何もなくて山に囲まれていて、ちょっと、本当に奥へ行ったところなので。
○加藤商工政策課長 やって、ほいと20万円とか30万円、ありがとうねと行けば、こんなものでこんなにくれるのかと思わせなければいけないと思うのです。
○松本吉生委員 1つ100万円ですよ、そうしたら。
○加藤商工政策課長 そうです。休みの日に

やっただけで。
○松本吉生委員 そうですね。
○梅津浩史委員 それで食事までしてくれれば。
○松本吉生委員 むしろ。
○河合恵元委員 需要がある、ないので困っている。
○加藤商工政策課長 鳳来西地区なんて、あんな立派な建物でサバゲーをやっているよなんて言ったら。
○河合恵元委員 小学校を使うことも。
○加藤商工政策課長 やっていいよと言ったら、高台で見えないので、全然いいです。
○河合恵元委員 1軒、2軒だな。押さえればいい。
○加藤商工政策課長 恵元さん、何人か若い人を呼んで、教室のサッシを1回全部外して、朝。それで何十万円か置いていったものを御苦労さまと10人ぐらいの子に5,000円ずつ渡してまたはめておいて。
○河合恵元委員 割ってしまうから。
○加藤商工政策課長 割ってしまうから。それだけやっても。
○河合恵元委員 そんなもの自分でやればいい。
○加藤商工政策課長 それもそうだし、来た人がやってもいいし、お金を払ってもお金は残ります。
○松本吉生委員 そうですね、小学校もあり。
○加藤商工政策課長 サバゲー好きな人たちに現場まで見に来てもらったのですけれども、地域の人が理解できなかった。
○松本吉生委員 サバゲーの人もりのりなのですか。
○加藤商工政策課長 のりのりです。
○松本吉生委員 これはいいです、みたいな。
○加藤商工政策課長 室内でできるところが全然ないのです。
○梅津浩史委員 室内はないでしょうね。

○河合恵元委員 全国から集まる可能性がある。

○加藤商工政策課長 あります。屋外だと結構そこらでやっていて、岡崎に小さい、こんな部屋の中でぱんぱんと撃つぐらいならありますけれども。

○松本吉生委員 だって、外に出ないということですよ、基本的には。住民の人だって別に。

○加藤商工政策課長 全然、できる。

○松本吉生委員 防弾ガラスにしよう。

○大石奈保委員 鳳来寺高校の跡で、校舎の中でバイクをやったではないですか。ああいう使い方もありなのですか。

○加藤商工政策課長 どこですか。

○大石奈保委員 その学校で。

○加藤商工政策課長 あり、あり。

○大石奈保委員 もう全然どういうふうに使ってもいいよという。

○加藤商工政策課長 怒られる。怒られるので、段階を踏んでやっていけば。

○河合恵元委員 借りる条件は何。俺が借りるにはどうすればいいの。

○加藤商工政策課長 計画を作って、こういうふうに使いたいだけどもいいかと。

○河合恵元委員 違う、違う。市の持ち物でしょう。

○加藤商工政策課長 今、教育委員会の持ち物なので、教育委員会にこういうことをやりたいのだけれどもとって。

○河合恵元委員 では、おりのの。

○加藤商工政策課長 折衝次第です。

○梅津浩史委員 あと、事故があったときはどうするのだとなる。

○事務局 そうですよ。

○梅津浩史委員 警察あたりが。消防署がだめと言う可能性が。

○河合恵元委員 実弾を使うわけではない。

○梅津浩史委員 いや、その階段から落ちてとか。

○加藤商工政策課長 そういうものは個人で保険に入っていれば。

○松本吉生委員 そういう保険も入ってもらって、代理店とかで。誰かの会社に、新城の代理店に落とすと。

○河合恵元委員 その事業をやるといって貸してくれるかと言ったら。

○梅津浩史委員 だから、彼らにやってもらわなければいけない。

○加藤商工政策課長 今だと、先ほども言った地域活性化ではないけれども、地域で学校の跡地を使ってやりたいと言えば、すぐオーケーです、今の時代。地域でやりたいと。

○河合恵元委員 学校は買えないの。

○加藤商工政策課長 買えます。

○河合恵元委員 幾ら。

○加藤商工政策課長 分からないです。でも、普通の価格です。

○松本吉生委員 解体費を考えたら、買うのはゼロではないですか。だって解体費、学校の校舎はやはり相当かかりますから。でも、何か行けそうですね。土日だけやったら、もう相当ですよ。

○河合恵元委員 買ってしまえば文句は言われないよね。

○梅津浩史委員 そうですね。

○松本吉生委員 戦国の聖地からサバゲーの聖地へ、みたいな、作手が名前変わって。

○河合恵元委員 貸してくれる。

○松本吉生委員 個人的に5万円を。

○加藤商工政策課長 だったら私も2万円ぐらいなら出してもいいかな。

○松本吉生委員 でも、何か、それ、行けそうな感じがします。ニーズがあるし。

それで、余り手をかけなくていいではないですか。

例えば、これ、やっていると、食べ物を食べさせるために食材も入れて、それはもしかしたら売れなかったら廃棄しなくてはならないというリスクもあるし、人を雇わなければ

いけないとか。

○加藤商工政策課長　そうですね。手間がかかればかかるほど金はかかりますので。

○河合恵元委員　サバイバルの、食事もサバイバルにしてイノシシを解体からやってみようとか。鹿の解体から。

○大石奈保委員　飲食はリスクですね。

○加藤商工政策課長　リスクだよ、飲食は。

○大石奈保委員　うちは、今、キャンプ場をリニューアルしたのではないですか。キャンプ場をリニューアルして、自分たちで全部持ってきてやってよというサイトを、逆に今、そういう方が需要が高いので、必要最小限のものしか置かないという場所なのですけども。変な話、宿泊施設、ほかにも幾つかタイプがあるのでですけども、ほかのきちんとしたお部屋に入ってもらいより、テントを使ってくれた方がありがたいです。何もやらなくていい。

○加藤商工政策課長　オートキャンプ場でね。

○大石奈保委員　そう。

もう全部持ってきて、自分たちでやって、もうきれいに片づけて帰っていくというだけなので。

○加藤商工政策課長　オートキャンプで風呂に入っていくだけだものね。

○大石奈保委員　そう。

○河合恵元委員　トイレがあってシャワーがあって。

○大石奈保委員　そう、お風呂場があってとすれば、それでよしなので、その方が。

○梅津浩史委員　うちはよく県民の森を使うので、県民の森は予約して、これだけ買いますと言って買っていくので。

○松本吉生委員　県民の森でバーベキューか何かするのですか。

○梅津浩史委員　バーベキューをするのです。

うちは全国から来るので、持ってくるわけにはいかないの、あそこの喫茶店で全部用

意していくれる。片づけも自分たち、大石さんが言われたように。

ただ、ペットボトルだけ捨てたらいいかん。

だから、今言われたように地域との軋轢があると、なかなか難しい。だから、最終的には先ほどの地域自治区あたりでもう一回話し合いができればいいでしょうね。

○加藤商工政策課長　そこですね。

○梅津浩史委員　ここは本当に、集まる場所をつくらないと。

○加藤商工政策課長　やはり地域のことなので。

○河合恵元委員　掃除はしてもらわないと。

○松本吉生委員　社会にたまっている不満をそこではき出させることによって、犯罪がなくなる。

(審議委員会に戻り、会長によるまとめ)

○鈴木誠協議会長　皆さん、どうもありがとうございました。

時間も随分使って盛り上がっていたと思います。

それでは、松本さんからはやめて、今日では、佐藤さんからお願いします。

いつもは松本さんの心臓をばくばく状態にさせてしまうので、今日は佐藤さんの方から。

まず、全体の大きな流れを紹介してもらって、メンバーの人から一言ずつコメントをもらって、どのようなその伴走がこれからは出来るのか、必要なのかということ、今日はアイデアを出し合っていただこうと思います。

では、佐藤さん、よろしく。

○佐藤真琴委員　全体で、まず、すごく認知度が低くて、知らないという人が何人かやはりいらっしゃるって、行ったことがある人が、何と1人しかいなくて、もともとルートから外れているとか、その立地的な難しさとか、運営母体がどこか分からないとか、情報発信不足であるとか、とにかく分からないという

状況がたくさん出てきました。

その中でも、その話をしていくと、では、その中でもどうしたら行きたくなるのかというお話にちょっと触れていって、そこに遠くても、行きにくいけれども、本当においしいとか本当に欲求を満たすようなものがあれば行くし、ここまで来る人はやはりいらっしゃるので、そういうニーズに合わせていくとか。実は、よくよく聞いていくと、その作手地区の周りには、みんなが集まる居酒屋とかパン屋とかおしゃれなカフェとか、子供を連れていきたいと思うような場所とかがあると言うのです。そういうツアーのマップのコンテンツを作ってみたらどうかとか、ポジティブな、建設的な意見もたくさん出てきました。

もちろん、その課題もたくさん出てきて、メニューとか雰囲気の問題とかいろいろあるのですけれども、そういうものももっと地元の人で、主婦層の皆さんとかユーザーであろう人たちを巻き込むような仕組みがあったら、もっと若者が流れ込むのではないかと、仕組みとしてのあり方も、その提案もたくさんありました。

私、聞いていてすごく思ったことは、皆さん、最初はあまり乗り気ではなかったのですけれども、当事者としてやはりこういう機会があると、バーチャルボードミーティングみたいな感じで、仮想理事会みたいな感じで、自分が理事になった気持ちで一生懸命考えてくれる。その考える場所とか機会というものがすごく貴重な伴走の支援なのではないかと、作手の人たちだけで頑張っている、やはり難しいところがあっても、いろいろな人が考えることで課題が見えてきたりやり方が見えてきたりすると思いました。

あと、細かいことは皆さんからお話しいただきたいと思います。

○鈴木誠協議会長 そうですね。では、一言ずつ補足してもらって。

では、菊川さんから、では、佐藤さんのグ

ループの人たちにお話してください。

○菊川倫太郎委員 この伴走ということなので、余り否定的なことを言ってもあれなのですけれども、いろいろ考えているのかな、他にもいい考えがあるのではというところはあります。

ですので、やはりこういった場も1つでしょうし、いろいろなアイデアをみんなが寄ってたかって出して、それを取り入れていくというような機会であったり、そういう、当事者と思われる方々が、いかにそういうふうにしていけるのかというようにところを地域の人であったり、新城市もそうかも分からないですけれども、そういった人がやはり刺激をしていくということも大事なのかなと思いました。以上です。

○鈴木誠協議会長 ありがとうございます。

では、そちらは村松さんですね。

○村松 東委員 今、言われたようなこと、交付金ありきの事業になっていると思うので、主体の、される方たちの責任を持つ方をきちんとつくってやっていただく方がいいかなと思うのと、伴走者という形でこういう会議みたいなものがそういうところに添えればすごくいいのだらうと思いますし、伴走者側も主体が誰か、誰かに責任という言い方ではないかもしれませんが、今加藤さんが一生懸命されていますけれども、そういうメインの人が集まると、より、互いに責任を持っていけるのかなと思うので、支える側も支援する側も、マンツーマンではないですけれども、ある程度、団体と団体でやるよりは、何かツアートップが決まってやると、より話がリアルに進むのかなとは思いました。

以上です。

○鈴木誠協議会長 ありがとうございます。

では、石田さん。

○石田靖典委員 僕も責任者を決めて、しっかりと、会社経営ではないですけれども、利益を出すような形で運営していくようにして

いった方がいいと思います。

あと、やっていらっしゃる方は、大体、地域のお年寄りが多いので、やはり若い人を入れて、イベントを立ち上げて、話し合っ、そのイベントを継続していくような形を作った方がいいと思いました。

○鈴木誠協議会長 ありがとうございます。

では澤上さんお願いします。

○澤上花子委員 若い人が行きたくなるような場所づくりをする、学校という雰囲気を味わってもらいたくて、そのためにその場所を残していくのもやり方かもしれませんけれども、とにかく魅力ある店づくりをするのがいいのかなという事は思いました。

○佐藤真琴委員 ちょっと1つだけ補足を。

○鈴木誠協議会長 いいですよ、どうぞ。

○佐藤真琴委員 皆さんから今、そのリーダーとか当事者がいないとか旗振り役がいないという話があつて。実際のところは、やはり見てみないと分からないし、ここでデータだけ見てやはりという話ではなくて、本人たちと話し合っ聞いてみたいですし、本人たちの声が上がってきて、外に出ていないということがすごく問題なので、一生懸命やっている現場の皆さんの声を拾ったりインタビューして、きちんと出していく、本当のところを出していくということが支援に1つ必要なのではないかなという気がします。

○鈴木誠協議会長 ありがとうございます。

では、Bの方でお願いします。松本さんから。

○松本吉生委員 冒頭、佐藤さんもおっしゃっていましたが、情報がなかなかなくて、ここでしている人を、私はたまたま知っていたのですが、14ページのこの収支を見ると、平成27年度を見ると収入が760万円で、そのうち交付金が320万円、支出があつて差し引きがマイナス22万2,000円になっていて、そのうち交付金が320万円だと、実態的には350万円以上の

赤字です。

ただ、一方、平成28年度の、年度ですから、7月15日までである、暖かい時期だけ見ると、多分、年度でこうやってきて、いろいろなことが、無駄なことが省けてきたと思うのですけれども、210万円の収入で支出が170万円で、46万3,000円の黒字が残っているということで、当然、冬は寒いから人が来るのが少ないので、夏は来る人が多いのでという中での数字だとは思いますが、やはりそういうものを踏まえた動きが必要なのではないかと。

もしかしたら期間営業かもしれないですし、もしかしたら、その寒い、もしくは雪が積もるのですか、ここは。

○白井商工政策副課長 雪よりも凍結です。

○松本吉生委員 凍結。

何か分からないですけれども、寒いというものを売りにしたような集客の仕方とかというものがあるのではないかなという感じです。

いろいろな意味でそういう知られていない世界に人を呼ぶようなやはり魅力づくりをしていかなければいけないという話があつたのと、逆にその知られていないからこそ、もしかしたらマニアみたいな、逆にそういう使うユーザーの方が余人に知られたい人たち。そういう人たちを呼ぶかどうかという問題はありますけれども、そういった人たちというニーズもなきにしもあらずだと思うので、例えば、そういった人たちを何か呼ぶような仕組みもいいのかなというようにお話がみんなから出ました。

それと、あと、伴走支援者のところなので、すけれども、当然、ある程度知識がある方、あと、成功体験とかを積んだ方ということも当然必要ですけれども、伴走支援者というところに行く前に、やはりこの、こういったソーシャルビジネスとかローカルビジネスを始める若者、女性、そういう起業、創業される人同士の何かコミュニティみたいなものをつ

くって、お互いのその悩みとか、その問題点とかいうものを出していけば、何か逆に、そのいろいろなことが話しやすいのではないかと、ちょっといろいろ知識があったり、うまくいった人の話だと、自分がうまくいった話と知識がある方だと、こうやればうまくいくみたいな話かもしれませんが、実はそういうものが困っている人たちにはマッチしていないという部分もあるのかもしれないですということで、お互いに事業を始めた方々のその悩みを共有化していかねばいけないので、そこは、またその伴走支援者がそこをなだめていかねばいけないのですけれども、この黄色の中での交流（ソーシャルビジネスとかローカルビジネスを始める若者、女性、そういう起業、創業される人同士の）みたいなものも何かしたらいいのかもしれないという話が出ました。

○鈴木誠協議会長 はい。ありがとうございました。

では、梅津さん、お願いします。

○梅津浩史委員 今、松本さんがいったような形ですが、これは少し考えないといけない。マニアックという話が出ましたが、そうすると、どうしてもやはりその地域で受け入れがたいとか、そういうものがあると、どうしても壁ができる。ある意味、いろいろなものを受け入れていかないと、やはりここの事業はなかなか難しいかな。それにはこの地域自治の、まずは自治でこんなこと、それはやってみて、提案しながら進めていかないと、やはりなかなか難しいかなと。こういうような、今の状態でいくと、やはり皆さんも思われるように、このままどんどん小さくなっていくか、もしくは、やる人がいなくなって、最後にはという、ではここからどうしようかというのは、先ほど言われたように、こういうネットワークも必要だと思いますが、やはりそこでやっている人たちがいろいろなものをここで、こんなことはどうと言われたときに、

受け入れ側が、この地域も含めて出来るかどうかややはりもう一つのネックになっているのかなと、それが出来るようになって、初めて次はお金を出してくれる人たちが出てくるというような流れが出てくれば、僕、経営者ではないので分からないのですが、そんな形が見えてくるのかなと思いました。あの話をしながら。

○鈴木誠協議会長 ありがとうございます。

では、大石さん。

○大石奈保委員 立地的な問題だったり、あとはターゲットをどういうところに絞るのかという話も出たのですけれども、まずは地域の方たちがどういうふうな形で存続させていきたいのか、この先、どういうビジョンを持っているのかということ一度固めた方がいいのかなとは、個人的には感じました。

大きな施設になると思うので、敷地が広いので、維持管理だけでも結構大変なのです。それに加えて飲食ということで、ちょっとリスクーかなかなという話も出たのですけれども、どういうニーズがあるのか、あとは自分たちがどういうビジョンで行きたいのか、それをいろいろと検討した上で、バランスがとれているかどうかということが問題なのかなというふうに思ったりもして。菅守レストランの場合だと、先ほど、梅津さんが言われたように、この相関図で言う、まだここの段階にもなっていないのかなという感じがするので、その部分がはっきりしてからでないと、その先の支援というものが見てこないのかなというふうにも感じました。

○鈴木誠協議会長 ありがとうございます。

では、最後、河合さん。

○河合恵元委員 菅守小学校自体は知っていて、場所も知っていて、そのいいロケーション、川が流れてみたい、民家があまりなくてみたいなどは分かったのですけれども。ただ、行政側をお願いするのは、例えば、これを題材にするぞと、いつ決めたか知らない

けれども、いや、これ、ちょっと行ってきてとか言ってくれた方がありがたかったなど、事前に。

これ、題材にするにはちょっと知らない人、行ったことがない人がいるから行ってみてというのがあったよかったかなということは思いました。

結局は、その3人がそれを運営しているという話になるのですけれども、やはりどういうつもりでそれをやり出したのかとか、大石さんが言われたようにビジョンがどうなのかとわからない中で議論しても、なかなか思い当たらないというか。

単純には、あそこはいい川があるから、夏だったら築場をやればまちから人が勝手に来るよと思ってしまうのです。果たしてその3人の方が年配の方でとか、歳は関係ないかもしれないけれども、パワーがあるかどうかとかということもちょっと分からないので、妄想での話し合いになってしまうなと感じました。

○鈴木誠協議会長 どうもありがとうございます。

では、予定の時間を5分過ぎてしまったので、今日の、ここでの話をまとめるのは後日また議事録を起こしながら論点整理をして皆さんに届けたいと思います。

確かに、今日、河合さんがおっしゃったように、こういう議題、話題を1つサンプルとして出して、みんなで前向きに議論しようということであれば、ぜひ、これを出すからということで情報提供していくのは、確かにそれは大事なことです。これからのちょっとやり方でぜひ参考に加藤さんもしてくれると思いますので、いい意味での教訓になったと思います。

ただ新城市で、作手で「つくでスマイル」をやっているということは、多分、みんな知っているだろうという前提に立ってしまっている部分もなきにしもあらずだったかもしれ

ません。新城の10の地域自治区の中で、山間地域で、例えば、コミュニティビジネスを手がけていくという1つ、モデル的な取り組みでもあるということです。ただ、それが今は事業者、起業者側が熱心にやって、それを行政がサポートをしている。行政の資金は、これはどうしても税金、補助金でしかない。でも、それがずっと続くわけではなくて、そこからどうやって自分たちのやりたい仕事や、やりたい人たちに関ってもらって、大きくしていくのかというところの次の段階を見据えて、どのようなサポートができるのだというところにまだ行ってなかったの、そのあたり、今日、皆さんのいろいろなヒントを得て、行政支援の、次の段階のサポートなりをどうしていったらいいのか、どういう視点でどのような方法がいいのかというところを今日はたくさんヒントをもらえたのかなと思います。

僕、今日、この資料を見ていて、ちょうど奥三河創業塾で中小企業診断士の大岩さんという方が講師ででていますが、いろいろと事業をやっていく中で中小企業がコミュニティビジネスとなると、単にその事業を大きくしていく、そして、成長させていくということ以外に、本当に行政がこのようなことを協力してくれ、あんなことをやってくれないかというような、こういう社会性のある地域の本当に、お年寄りのお世話であるとか配食であるとか、それから子育てと、それから介護の両立というような、そういうダブルケアの話であるとか、実はいろいろな相談があって、関わっていかなければいけない。そうすると従来の、その事業を大きくしていくということだけにとらわれないような、そのような視点も持たなければいけないということも実はあったりして、そういうときに、どういうサポートが出来るかというときに、この前、コミュニティ診断士という制度をつくって、最終的には知事に認証してもらおうというところまで持って行って、150人ぐらい認証する制

度をつくって、実際、僕はちょっと講義をや
って、自分だけでは足りないので、こういう
中小企業診断士の方とか銀行の方とか入っ
てもらったのです。その、実際にコミュニ
ティ診断士、実際にはコミュニティビジネス
診断士を目指したのですけれども、それには
いろいろな人が実はなってくれて、名古屋
のアナウンサーとか、それから、警察署長
のOBとか、それから元銀行マンとか、元
大手企業の営業部長だった方とか、それ
からパイロットとか、皆さん、いろいろ
なところで自分なりの活躍をしてきた人
たちが、もう、そういうことよりもっと
自分の経験なり知識なりを、その地域づ
くりとかコミュニティづくりとか、自分
の知らないことに向かおうとしている団
体に協力していきたいという人が、そう
いう講座に参加して、そして、認証を受
けるまでチャレンジして、試験も受けて
もらい、それで登録してもらったのです
けれども。いかんせん、そんな多様な人
たちに頼るほどのテーマがなかなか見
つからなかったということで、結局、使
い切れなかったという現状があるのだ
すけれども。ただ、やはりこういうソー
シャルだとかコミュニティということに
なると、もう通常のそのビジネスライ
フではないようないろいろなことが出
てくるし、出さなければいけないのだ
らうなということもあるのですね。

そういうことも想定しながら、これから、
この伴走支援者というところを一体どう
やって作っていくのか、そのようなこと
も具体的に新城では、徐々にやはり考
えていかなければいけないのだらうな
と、皆さんの話を聞いて本当に思わさ
れました。また僕もチャレンジしてい
きたいなと思います。

それでは、今日はこの第3番目の協
議内容、菅守小学校跡地を利用したビ
ジネスの発展をどうして導くかとい
うところを皆さんにヒントをいただき
ましたので、これをもとにもっと案を
考えていきたいと思います。

それではその他、4として加藤さん
から。
○西田主任 資料の最後につけさせて
いただいたのですが、10月8日、明後
日になるのですが、プロボノ体験ワー
クショップというものを旧鳳来地区の
鳳来館というところで行います。

本日、ちょっと提案させていただいた
伴走支援ということで、そういったよう
な内容のワークショップになっており
ますので、もしお時間、御都合がつけ
ましたら、ぜひ御参加いただけたら
と思います。

以上、紹介させていただきます。よろ
しくお願いいたします。

○佐藤真琴委員 ぜひ私も、途中参
加になりますが、ぜひ参加しに行き
ますので、ぜひお願いします。

○白井商工政策副課長 ありがとう
ございました。

○西田主任 本日、このプロボノ体
験ワークショップの主催者である鳳
来館の安形さんがお見えになってお
りますので、ちょっと御紹介させて
いただきます。

○鳳来館の安形氏 報告させていただきます、
安形と申します。

イベントをやるのですけれども、今日
たまたま佐藤さんとこの会合の前にお
話していて、顔を出していいですか
と言ったら、いいですよとおっしゃ
ったので、ちょっとぷらっと見に来
たらちょうど伴走支援のことをやっ
ていたので。僕たちはブザーとか、
もちろん佐藤さんもそうなのです
けれども、先輩起業家とか起業の人
たちの伴走支援を受けて、今、ここ
にいるのですけれども、すごく助か
ったので、そういったものを地域で
増やしていきたいなど、そういうよ
うな活動をしています。

12月3日にプレゼン大会もやります
ので、プレイメントということでさ
せていただきます。もしよかったら、
お時間が合うようでしたらお越し
ください。済みません、お邪魔し

ました。

○鈴木誠協議会長 いい企画ですね。

○白井商工政策副課長 安形さん、ありがとうございました。

それでは皆さん、ありがとうございました。

それで次回、また11月の日にちを連絡させていただきますので、よろしく願いいたします。

また、11月、元気でお会いしましょうという感じでございます。今日はお疲れさまでございました。

ありがとうございます。

○河合恵元委員 そこまでにここへ行ってこいよみたいな感じじゃないの。みんな行ってよ、みたいな。

○白井商工政策副課長 はい、ぜひ菅守へ。

○鈴木誠協議会長 一回行ってきて、次回、ここに集わないと。

それから、もっと別のところに行った方がいいということなら事前に。

○白井商工政策副課長 事前に連絡させていただいて、ぜひこちらへということも情報を提供させていただきます。

よろしく願いいたします。

○鈴木誠協議会長 では、皆さん、次回までに菅守に行って、レストランで食事をしてきて、その感想も含めて、また次回集まりましょう。

では、今日はどうもありがとうございました。